

2025 年度

歯科衛生祉学科

- ・ 教育課程表
- ・ 実務経験のある教員等による授業科目の一覧表
- ・ 授業概要（シラバス）

IGL医療福祉専門学校

歯科衛生学科 教育課程表

科目 区分	教 育 内 容	指定 単位	授業科目	区分	単位数	第 1 学年	第 2 学年	第 3 学年
基礎 科目	科学的思考の基盤 人間と生活	10	心理学	講義	1 (16)	1 (16)		
			英語	講義	1 (16)	1 (16)		
			保健体育	演習	2 (16)	1 (16)	1 (16)	
			情報科学	講義	2 (16)	1 (16)	1 (16)	
			生物学	講義	1 (16)	1 (16)		
			化学	講義	1 (16)	1 (16)		
			コミュニケーション学	講義	2 (30)	2 (30)		
	小計	10			10 (158)	8 (126)	2 (32)	0 (0)
専 門 基 礎 科 目	人体の構造と機能 歯・口腔の構造と機能 疾病の成り立ち及び回復の 促進	15	解剖学	講義	2 (40)	2 (40)		
			口腔解剖学	講義	2 (32)	2 (32)		
			口腔解剖学実習	実習	1 (32)		1 (32)	
			組織学・口腔組織学	講義	1 (20)	1 (20)		
			生理学・口腔生理学	講義	2 (40)	2 (40)		
			病理学・口腔病理学	講義	2 (32)	2 (32)		
			微生物学・口腔微生物学	講義	2 (40)	2 (40)		
			薬理学・歯科薬理学	講義	2 (32)	2 (32)		
			生化学・口腔生化学	講義	2 (36)	1 (18)	1 (18)	
			栄養学	講義	1 (20)	1 (20)		
	歯・口腔の健康と予防に関 わる人間と社会の仕組み	7	理工学・歯科理工学	講義	2 (32)	2 (32)		
			衛生学・公衆衛生学	講義	1 (18)		1 (18)	
			口腔衛生学 A	講義	1 (16)	1 (16)		
			口腔衛生学 B	講義	1 (16)	1 (16)		
			歯科衛生統計	講義	1 (18)		1 (18)	
			衛生行政・社会福祉学	講義	1 (18)		1 (18)	
	小計	22			24 (442)	19 (338)	5 (104)	0 (0)
専 門 科 目	歯科衛生士概論	2	歯科衛生士概論	講義	2 (32)	2 (32)		
	臨床歯科医学	8	歯科医学概論・臨床概論	講義	1 (20)	1 (20)		
			審美歯科	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科保存学 A	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科保存学 B	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科保存学 C	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科補綴学 A	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科補綴学 B	講義	1 (18)		1 (18)	
			顎・口腔外科学	講義	1 (18)		1 (18)	
			小児歯科学	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科矯正学	講義	1 (18)		1 (18)	
			歯科放射線学	講義	1 (18)		1 (18)	
			麻酔学・歯科麻酔学	講義	1 (18)		1 (18)	
			臨床検査学	講義	1 (18)		1 (18)	
			高齢者歯科学	講義	1 (16)		1 (16)	
			障害者歯科学	講義	1 (16)		1 (16)	
	歯科予防処置論	8	歯科予防処置	講義	5 (90)	2 (36)	1 (18)	2 (36)
	歯科保健指導論	7	歯科予防処置 実技実習Ⅰ	実習	2 (72)	2 (72)		
			歯科予防処置 実技実習Ⅱ	実習	1 (36)		1 (36)	
			歯科保健指導	講義	5 (90)	2 (36)	1 (18)	2 (36)
	歯科診療補助論	9	歯科保健指導 実技実習Ⅰ	実習	1 (36)	1 (36)		
			歯科保健指導 実技実習Ⅱ	実習	1 (36)		1 (36)	
			歯科診療補助	講義	5 (90)	2 (36)	1 (18)	2 (36)
	臨地実習（臨床実習を含	20	歯科診療補助 実技実習Ⅰ	実習	1 (36)	1 (36)		
			歯科診療補助 実技実習Ⅱ	実習	3 (108)		3 (108)	
			臨地・臨床実習	実習	20 (900)		2 (90)	18 (810)
	小計	54			61 (1794)	13 (304)	24 (572)	24 (918)
選 択 必 修 科 目		7	看護学	講義	1 (16)		1 (16)	
			総合演習	演習	2 (44)		2 (44)	
			卒業研究	演習	1 (16)			1 (16)
			介護学	講義	1 (16)		1 (16)	
			東洋医学	講義	1 (16)	1 (16)		
			マナー	講義	1 (16)		1 (16)	
	小計	7			8 (140)	2 (32)	5 (92)	1 (16)
合 計		93			103 (2534)	42 (800)	36 (800)	25 (934)

2025年度「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表

歯科衛生学科

授業科目名	担当教員	単位数	担当教員がどのような実務経験をもち、実務経験を生かして、どのような教育を行うのか
歯科予防処置実技実習Ⅰ	末永 由美	2	歯科医院での10年以上の臨床経験があり、多くの臨床経験から得た知識技術の中で、基礎的な知識・技術の習得を目的とし教育を行っている。
歯科予防処置実技実習Ⅱ	末永 由美	1	歯科医院での10年以上の臨床経験があり、臨床経験をもとに実際の臨床症例にあわせた処置方法や対応について教育を行っている。
歯科保健指導実技実習Ⅰ	植松 汐美	1	歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。
歯科保健指導実技実習Ⅱ	植松 汐美	1	歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。
歯科診療補助実技実習Ⅰ	廣瀬 桃子	1	歯科医院での5年以上の臨床経験を有し、歯科診療に必要な技術、知識のみでなく、自ら考え、行動する態度を身につけるよう教育を行っている。
歯科診療補助実技実習Ⅱ	森 安曇	3	歯科医院での20年以上の臨床経験を有し、歯科診療補助に必要な技術・知識の習得とともに、チーム医療のスタッフとして専門的な立場から行動できるよう教育を行っている。

合計

9

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 心理学		担当者 河村 隆史	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ストレス社会と言われる現代社会において、直面しているさまざまな問題の多様性を理解し、臨床心理学を活用しながら理解をしていき、専門職としての業務に活用できるよう臨床家の養成を目指していく。					
[内容の概要] 臨床心理学の基本事項の理解を深め、日常の生活の中でみられる事象や状況を取り上げながら理解を深めていく。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 専門職としてかかわる患者等に対して技術的なサービス提供にとどまることなく、病気を抱える患者に対する心理的なサービス提供も行えるような専門職の確立を目指す。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 臨床心理学について（総論） 2 健康と医療と心理学について 3 健康心理学 4 各種の心理支援方法 5 医療心理学 6 医療心理学の実際 7 災害心理学 8 期末試験 9 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 健康・医療心理学 宮脇、大野、藤本、松野編 医歯薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 期末試験結果を重視し、出席状況、授業態度を加味して総合的に評価する。		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 英 語		担当者 岩國 智子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 医療サービスに携る際に必要となるコミュニケーション能力を、英語を通じて培う。 また、中学英語をベースとし、英語の基礎を復習する。					
[内容の概要] テキストとプリントで、主に歯科医院での医療場面を想定しながら、英語をどのように使うか学びます。その際、文法や表現、英文読解、リスニングも必要に応じて取り入れ、中学レベルの英語から復習していきます。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科医院での医療場面でどのような英語が用いられるのか理解する。英語を用いたコミュニケーションを積極的にとる姿勢を持つことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 オリエンテーション (授業の進め方を説明。簡単な英語での自己紹介の仕方を学ぶ。) 2 §1. 受付での電話応対・§2. 受付での初診応対 (受付のシーンを設定しどのように英語でコミュニケーションをとっていくのかを学ぶ。) 3 §3. 問診 & Listening (問診の英語での聞き方を学習する。リスニング学習のこつを習得する。) 4 §11. 歯周病・§12. 歯周病検査 (歯周病や歯周病検査を英語でどのように表現するのかを学ぶ) 5 §13. ブラッシング指導・§14. スケーリング (ブラッシング指導やスケーリングのシーンを設定しどのように英語でコミュニケーションをとっていくのかを学ぶ) 6 §19. インプラント・§20. 口内炎・§21. 口臭 (インプラント、口内炎、口臭についての英語での説明の仕方を学習する) 7 テスト対策学習 (テキストとプリントを用いてポイントを復習する) 8 まとめ・前期末試験 9 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 1ヶ月で身につく！歯科医院での実用英会話(第2版) 3600円+税 医療薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 期末試験及び授業中に行う小テストを評価の対象とします。 評価＝小テスト 10%＋期末試験 90%		

学科名 歯科衛生学科		科目名 保健体育（ヨガ）		担当者 黒川 雅代	
種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 （ 1 単位）		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ヨガの基礎的な呼吸法、ポーズなどを用いた体の各部位に効果的な運動プログラムを実施する。心身共に健康な生活を送るための基礎知識を身につけ、健康面での自己管理の方法を学ぶ。					
[内容の概要] ヨガの基礎的な呼吸法、ポーズを用いた体の各部位に対する身体的・内面的効果を説明し、実践する。また運動習慣をととのえ、維持していけるための自身に合った運動プログラムの組み立てに取り組む。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 心身共に健康な生活を送る為の基礎知識を身につけ、健康面での自己管理の方法が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 保健体育科目（ヨガ）の全体構成や実践内容・方法・諸注意などについて説明を行う 2 ヨガとは、基礎的な呼吸法、ポーズの実践1ー自分の体を点検・配慮・実感する 3 基礎的な呼吸法、ポーズの実践2ー自分の体を点検・配慮・実感する 4 基礎的な呼吸法、ポーズの実践3ー自分の体を点検・配慮・実感する 5 自分に合った運動プログラムの組み立てー体のコンディショニング能力を身につける 6 自分に合った運動プログラムの組み立てー体のコンディショニング能力を身につける 7 自分に合った運動プログラムの組み立てー体のコンディショニング能力を身につける 8 課題（自分の生活に取り込めるようなヨガプログラム）の提出、実践 9 復習、まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 作成した資料を配布する			[単位認定の方法及び基準] 平常点（65%） 出席状況（20%） 課題提出（15%）		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 保健体育（ヨガ）		担当者 黒川 雅代	
種類 （ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 （ 1 単位）		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ヨガの基礎的な呼吸法、ポーズなどを用いた体の各部位に効果的な運動プログラムを実施する。心身共に健康な生活を送るための基礎知識を身につけ、健康面での自己管理の方法を学ぶ。					
[内容の概要] ヨガの基礎的な呼吸法、ポーズを用いた体の各部位に対する身体的・内面的効果を説明し、実践する。また運動習慣をととのえ、維持していけるための自身に合った運動プログラムの組み立てに取り組む。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 心身共に健康な生活を送る為の基礎知識を身につけ、健康面での自己管理の方法が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 保健体育科目（ヨガ）の全体構成や実践内容・方法・諸注意などについて説明を行う 2 ヨガとは、基礎的な呼吸法、ポーズの実践1ー自分の体を点検・配慮・実感する 3 基礎的な呼吸法、ポーズの実践2ー自分の体を点検・配慮・実感する 4 基礎的な呼吸法、ポーズの実践3ー自分の体を点検・配慮・実感する 5 自分に合った運動プログラムの組み立てー体のコンディショニング能力を身につける 6 自分に合った運動プログラムの組み立てー体のコンディショニング能力を身につける 7 自分に合った運動プログラムの組み立てー体のコンディショニング能力を身につける 8 課題（自分の生活に取り込めるようなヨガプログラム）の提出、実践 9 復習、まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 作成した資料を配布する			[単位認定の方法及び基準] 平常点（65%） 出席状況（20%） 課題提出（15%）		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 歯科衛生学科		科目名 情報科学		担当者 亀岡百枝	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 1 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] コンピュータを使って、情報の収集～入力～編集までの基本的技術を学習し、習得すること。					
[内容の概要] 文書作成ソフトWordの基本操作から実践的な使い方までを紹介する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] Wordの基本機能を習得し、情報をわかりやすく文書化する技術を身につけること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1．Windows 基礎・日本語入力 2．Word 基本操作・文字書式 3．段落書式 4．表の作成 5．表の編集 6．ページ設定 7．オブジェクトの挿入 8．図形描画 9．レポート作成 10．総合演習 11．実技テスト					
[使用テキスト・参考文献] 配布資料あり			[単位認定の方法及び基準] 課題提出（40） 実技テスト（60）		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 情報科学		担当者 亀岡百枝	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 1 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 様々な情報の入力および加工と統計処理の知識と技能を習得すること。					
[内容の概要] ビジネスソフトExcelおよびPowerPointの基本操作から実践的な使い方までを紹介する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 情報をまとめる表・グラフ・図解を作り、分かりやすい資料を作成できるようになること。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1．エクセル基本操作 2．セルの書式とシート操作 3．基本関数／セルの絶対参照 4．並べ替えと抽出 5．統計のための関数 6．エクセルまとめ／パワーポイント基本操作 7．スライドデザイン／スライドマスター 8．アニメーションの設定 9．プレゼン技法1（表と図解） 10．プレゼン技法2（グラフ） 11．実技テスト					
[使用テキスト・参考文献] 配布資料あり			[単位認定の方法及び基準] 課題提出（40） 実技テスト（60）		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 生物学		担当者 吉岡 寛	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 生物に共通する生命現象を学ぶことにより，生物であるヒトを科学的に理解する。また，専門分野の基礎となるような生物学の基礎的知識の修得を目標とする。					
[内容の概要] さまざまな生命現象を科学的に理解するために必要な，生物学の基礎的事項を学習する。また，現代社会を生きる上で重要な知識となる，遺伝子や免疫について取り上げる。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 生物に共通する現象や，生物としてのヒトの特徴を科学的に理解することにより，現代の生命科学にかかわるさまざまな情報を正しく理解する基本的な素養を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1．生物学と生物の性質 2．遺伝子と遺伝その 1 3．遺伝子と遺伝その 2 4．ヒトの感覚系 5．ヒトの神経系と効果器 6．恒常性の維持 7．免疫 8．期末試験 9．試験の解説 総まとめ					
[使用テキスト・参考文献] ・ヒトを理解するための生物学 裳華房			[単位認定の方法及び基準] 期末試験で60点以上を合格とする。		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 化学		担当者 今 井 康 夫
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 8 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 1. 身近な物質の性質を通して化学に親しみ、生活に関わりのある化学的な事象を認識する。 2. 溶液の調製や希釈のための計算や手技を練習する。 3. 危険な化学反応を避けるための常識的な知識を学ぶ。			
[内容の概要] 1 濃度、pHなどについて高校までに学んだことを復習する。 2. 酸、アルカリ、アルコール、油、塩分などによって起こる化学反応について学ぶ 3. ハンディピペットなどの基本的な実験器具の使い方を体験する。			
[修了時の達成課題（到達目標）] 化学の常識的な感覚と、歯科衛生士業務に関連のある知識や計算能力を身につける。			
[各回のテーマ・内容] 1 %の計算、単位の換算 2 酸とアルカリ 3 生活と化学 計算練習 4 実験器具（ハンディピペットなど）の扱い方 5.濃度の計算 6 復習 7. 期末試験 8 試験解説			
[使用テキスト・参考文献] 配布資料		[単位認定の方法及び基準] 期末試験に授業中に行う小テストの成績を加味して単位認定する。	

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 コミュニケーション学		担当者 田坂 裕一	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 16回	時間数(単位数) 32時間 (2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[目的・ねらい] 本授業は、これから歯科衛生士資格の取得を目指す学生に対し、ケアを必要とする人に適切で質の高い支援を提供する際の基本となる「対人コミュニケーション能力」を習得させることを目的とする。					
[内容の概要] 「講義」により、対人コミュニケーションに関する基礎知識を理解するとともに、「練習・ワーク」により、「話す」、「聴く」、「書く」、「考える」、「協力する」などの豊かなコミュニケーションに必要なスキルと態度を身に付ける。					
[修了時の達成課題（到達目標）] よりよいコミュニケーションのあり方がわかり、ケアワーカーとしてそれを実践しようとする意欲と態度を会得している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 (4月11日) よりよいコミュニケーションのためにーラポールの形成 2 (4月18日) ケア・コミュニケーション ① 相手とともに 3 (4月26日) ケア・コミュニケーション ② ポジティブな表現法 4 (5月 9日) 自己を知るー交流分析 5 (5月16日) ノンバーバル・コミュニケーション 6 (5月23日) おもてなしの基本 7 (5月30日) 敬語を上手に使いこなす 8 (6月 6日) ビジネスマナーを身につける ① 電話対応の基本 9 (6月13日) ビジネスマナーを身につける ② ビジネスメールの書き方 10 (6月20日) 苦情対応とカスタマーハラスメント 11 (6月27日) アンガー・マネジメント 12 (7月 4日) ストレス・マネジメント 13 (7月11日) アサーティブな話し方・伝え方 14 (7月25日) これまでの学習のまとめ 15 (7月30日) 期末試験 16 (8月 1日) 期末試験の解説と学びのふりかえり					
[使用テキスト・参考文献] ・使用テキストなし ・適宜プリント配付			[単位認定の方法及び基準] ① 出席状況 ② 授業への姿勢・態度 ③ 授業レポート ④ 期末テスト を評価対象とし、①+② (20%) は観察法により、 ③ (20%)、④ (60%) は記述・解答内容を評価する		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 解剖学		担当者 内田 隆	
種類 (講義)・演習・実習)		回数 30回	時間数(単位数) 40時間(2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[目的・ねらい] 人体、特に頭頸部の正常な構造だけでなく、それら諸構造の立体的位置関係を理解することにより、機能や病気を知り、診療を行うための基礎となる知識を身につける。					
[内容の概要] 人体を構成する要素を、骨、筋、神経、内臓等に分類し、全身のこれらの構造について概略を学ぶ。歯科にとって重要な頭頸部については、より細部について学ぶ。					
[修了時の達成課題(到達目標)] 人体、特に歯科医療に関係の深い頭頸部の構造について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1. 解剖学で学ぶこと			17 脈管系概要、心臓		
2 骨格系概説 体幹骨			18 動脈、静脈、リンパ系、脾臓		
3 上肢骨、下肢骨			19 神経系の概要、神経系の構成、脳脊髄膜		
4 頭の骨①			20 中枢神経系、脳の血管系		
5 頭の骨②			21 末梢神経系、伝導路		
6 頭の骨③			22 感覚器		
7 顎関節、筋系概説			23 口腔、口狭		
8 頭頸部の筋①			24 舌、唾液腺		
9 頭頸部の筋②			25 頭頸部の血管系①		
10 体幹・体肢の筋			26 頭頸部の血管系②、リンパ系		
11 内臓学概説、消化器系①			27 頭頸部の神経系①		
12 消化器系②			28 頭頸部の神経系②		
13 呼吸器系、泌尿器系			29 期末試験		
14 生殖器系、内分泌系			30 期末試験解説		
15 中間試験					
16 中間試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 1 解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			[単位認定の方法及び基準] 授業の出席および中間試験と期末試験の成績により評価する。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 口腔解剖学		担当者 前田憲彦／吉子裕二	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 18回	時間数(単位数) 32時間 (2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[目的・ねらい] 顎口腔領域の局所解剖、とりわけ歯の解剖について学ぶ。歯の形態・構造が持つ意味を理解する。機能に応じて特徴的な構造を有する個々の歯の形態を理解する。また、本講義には、組織学・口腔組織学の橋渡しとなる内容、序論も含まれる。 [内容の概要] 口腔の解剖の概論、系統発生学を含む歯の構造と機能、細胞生物、組織序論 [修了時の達成課題（到達目標）] 歯の構造・機能を理解、個々の歯の鑑別ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1：歯の解剖を学ぶにあたって（咀嚼の重要性）代生歯との比較 2：総論1 3：総論2 4：切歯の構造と重要性 5：犬歯の構造と重要性 6：小臼歯の構造と重要性 7：小臼歯の構造と重要性 8：中間試験 9：咬合と大臼歯の構造 10：咬合と大臼歯の構造 11：乳歯の構造と後継代生歯との比較 12：乳歯の構造と後継代生歯との比較 13：歯の形態異常 14：試験 15：解説 16：総論（肉眼解剖、顕微解剖および細胞）、組織の見方 17：細胞の構造と機能 18：細胞の一生と発生					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学			[単位認定の方法及び基準] 12回までを一括して口腔解剖学試験とする。 16回～18回および組織学・口腔組織学講義の1～4回（合計7回分）を組織学・口腔組織学講義の中間試験とする。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 口腔解剖学実習		担当者 下江宰司	
種類 (講義 ・ 演習 (実習))		回数 16回	時間数(単位数) 32時間 (1単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 口腔保健医療従事者として不可欠な解剖学的知識を修得する。 [内容の概要] 歯型彫刻（上顎1番，上顎3番，上顎4番，下顎4番，上顎6番，下顎6番，下顎乳歯D）と筆記試験。 [修了時の達成課題（到達目標）] 歯科衛生士として必要な歯の形態を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 第1回 実習の目的，歯型彫刻 上顎中切歯（説明・彫刻）（下江） 第2回 上顎中切歯（彫刻）（下江） 第3回 上顎中切歯（彫刻）（下江） 第4回 歯型彫刻 上顎犬歯（説明・彫刻）（下江） 第5回 歯型彫刻 上顎犬歯（彫刻）（下江） 第6回 歯型彫刻 上顎第一小臼歯（説明・彫刻）（下江） 第7回 歯型彫刻 上顎第一小臼歯（彫刻）（下江） 第8回 歯型彫刻 下顎第一小臼歯（説明・彫刻）（下江） 第9回 歯型彫刻 下顎第一小臼歯（彫刻）（下江） 第10回 歯型彫刻 上顎第一大臼歯（説明・彫刻）（下江） 第11回 歯型彫刻 上顎第一大臼歯（彫刻）（下江） 第12回 歯型彫刻 下顎第一大臼歯（説明・彫刻）（下江） 第13回 歯型彫刻 下顎第一大臼歯（彫刻）（下江） 第14回 歯型彫刻 下顎第一乳臼歯（説明・彫刻）（下江） 第15回 歯型彫刻 下顎第一乳臼歯（彫刻）（下江） 第16回 筆記試験（下江）					
[使用テキスト・参考文献] 最新歯型彫刻―理論と実際―（小花 甚一，細井 紀雄，医歯薬出版）			[単位認定の方法及び基準] 歯型彫刻 7 本と筆記試験の合計が 60 点以上		

学科名 歯科衛生学科		科目名 組織学・口腔組織学		担当者 吉子裕二	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 8 回	時間数(単位数) 2 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 人体を構成する器官の構造を顕微鏡レベルで学び、機能を理解する。また、個々の組織を構成する細胞についても学習する。					
[内容の概要] 人体の構造のうち、とりわけ口腔を中心とした消化器系に力点を置いて講義する。試験講義の中でしばしば演習問題を扱う。また、講義内容の理解を深めるため、顕微鏡実習も行う。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 口腔を中心とした組織構造を理解し、機能を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1：4大組織 1 2：4大組織 2 3：消化器、その他の主要器官 4：演習 5：中間試験 6：解説 7：総論（口腔組織） 8：エナメル質 9：象牙質・歯髄 10：歯周組織 12：顔面と口腔の発生 13：歯と歯周組織の発生 14：実習 15：実習 16：演習 17：期末試験 18：解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ解剖学・組織発生学・生理学 歯科衛生学シリーズ 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			[単位認定の方法及び基準] 中間試験、期末試験および実習提出物により総合的に判断する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 生理学・口腔生理学		担当者 今井 康夫																																									
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 20回	時間数(単位数) 40時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																																								
[目的・ねらい] 生命を保ち子孫を残すために機能しているカラダのしくみを，細胞レベルから器官系のレベルまで，さまざまな角度から学ぶ．前半は環境の変化に適応しながら，栄養を取り込みエネルギーに替えて新陳代謝と生殖行動を行う生命の基本的機構を学び，後半は口腔周辺での生理現象を取り上げて，解剖学の知識と照らし合わせながら，諸器官の機能やその連係を理解する． [内容の概要] 全身の生理学については生化学・薬理学などの基礎となる知識，口腔生理学については臨床科目の勉強に必要な事項を中心に学習する。 [修了時の達成課題（到達目標）] 全身の器官や口腔のもつ諸機能を理解し，説明ができるようになる。																																													
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>ホメオスタシス，細胞</td><td>11</td><td>体温・排泄</td></tr><tr><td>2</td><td>血液</td><td>12</td><td>内分泌・生殖</td></tr><tr><td>3</td><td>循環</td><td>13</td><td>歯と口腔の感覚</td></tr><tr><td>4</td><td>呼吸</td><td>14</td><td>味覚と嗅覚</td></tr><tr><td>5</td><td>筋</td><td>15</td><td>咬合と咀嚼・吸啜</td></tr><tr><td>6</td><td>神経</td><td>16</td><td>嚥下と嘔吐</td></tr><tr><td>7</td><td>感覚</td><td>17</td><td>発声，唾液</td></tr><tr><td>8</td><td>消化・吸収</td><td>18</td><td>復習</td></tr><tr><td>9</td><td>復習</td><td>19</td><td>期末試験とまとめ</td></tr><tr><td>10</td><td>中間テストと解説</td><td>20</td><td>試験解説</td></tr></table>						1	ホメオスタシス，細胞	11	体温・排泄	2	血液	12	内分泌・生殖	3	循環	13	歯と口腔の感覚	4	呼吸	14	味覚と嗅覚	5	筋	15	咬合と咀嚼・吸啜	6	神経	16	嚥下と嘔吐	7	感覚	17	発声，唾液	8	消化・吸収	18	復習	9	復習	19	期末試験とまとめ	10	中間テストと解説	20	試験解説
1	ホメオスタシス，細胞	11	体温・排泄																																										
2	血液	12	内分泌・生殖																																										
3	循環	13	歯と口腔の感覚																																										
4	呼吸	14	味覚と嗅覚																																										
5	筋	15	咬合と咀嚼・吸啜																																										
6	神経	16	嚥下と嘔吐																																										
7	感覚	17	発声，唾液																																										
8	消化・吸収	18	復習																																										
9	復習	19	期末試験とまとめ																																										
10	中間テストと解説	20	試験解説																																										
教科書 1．歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学 2．歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学			[単位認定の方法及び基準] 中間試験と期末試験の結果により評価する。 出席および授業態度も評価に加える。																																										

学科名 歯科衛生学科		科目名 病理学・口腔病理学		担当者 今井 康夫	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 19回	時間数(単位数) 32時間 (2単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[目的・ねらい] 全身・口腔の各臓器・組織が病的状態において形態的，機能的にどのように変化するかについて学ぶ。 病気の予防・診断・治療に関わる基礎的知識を得ることを目的とする。 [内容の概要] 病変の成り立ちや特徴などを横断的に学習し，特に，口腔領域の病変の病理学的特徴について詳細に学ぶ。また組織像にみられる病的変化について学ぶ。 [修了時の達成課題（到達目標）] 1）病変の基本的変化がわかるようになる。 2）口腔病変の概要を理解できる。 3）齲蝕，歯根嚢胞，扁平上皮癌，エナメル上皮腫など代表的な疾患の組織像を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 序論／遺伝性疾患と先天異常（Ⅰ-1,2章） 2. 口腔領域の奇形（形成異常）（Ⅱ-11章） 3. 循環障害（Ⅰ-3章） 4. 代謝障害と退行性病変（Ⅰ-4章） 5. 増殖と修復／炎症（Ⅰ-5,6章） 6. 免疫応答異常（Ⅰ-6章） 7. 腫瘍（Ⅰ-7章） 8. 口腔領域の腫瘍，口腔癌（Ⅱ-7②③,8章） 9. 歯の発育異常／歯の損傷と着色・付着物（Ⅱ-1,2章） 10. 復習・小テスト 11. う蝕（Ⅱ-3章） 12. 象牙質・歯髄複合体の病態（Ⅱ-4章）			13. 根尖の病変（Ⅱ-5章①） 14. 辺縁歯周組織の病変ほか（Ⅱ-5章②③④） 15. 口腔粘膜の病変（Ⅱ-6章） 16. 口腔領域の嚢胞（Ⅱ-7章①） 17. 顎骨と唾液腺の病変，口腔組織の加齢的变化（Ⅱ-10章） 18. 復習 19. 期末試験と解説		
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学			[単位認定の方法及び基準] 期末試験の成績に，講義態度や小テスト、提出物による平常点を加えて総合的に判断する。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 微生物学・口腔微生物学		担当者 松尾 美樹																											
種類 ((講義)・演習・実習)		回数 23回	時間数(単位数) 40時間(2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																										
[目的・ねらい] 医学微生物・口腔微生物学の基礎・免疫学の基礎を理解させる。 [内容の概要] 医学微生物学 (細菌学、ウイルス学、真菌学、感染症学、化学療法学)、免疫学の基礎																															
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1. 微生物について</td><td>14. 免疫③</td></tr><tr><td>2. 微生物の一般性状①</td><td>15. 滅菌と化学療法①</td></tr><tr><td>3. 微生物の一般性状②</td><td>16. 滅菌と化学療法②</td></tr><tr><td>4. 微生物の代謝</td><td>17. 口腔細菌①</td></tr><tr><td>5. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン①</td><td>18. 口腔細菌②</td></tr><tr><td>6. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン②</td><td>19. 実習①</td></tr><tr><td>7. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン③</td><td>20. 口腔細菌③</td></tr><tr><td>8. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン④</td><td>21. 実習②</td></tr><tr><td>9. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン⑤</td><td>22. 試験</td></tr><tr><td>10. 感染と発症①</td><td>23. 解説</td></tr><tr><td>11. 感染と発症②</td><td></td></tr><tr><td>12. 免疫①</td><td></td></tr><tr><td>13. 免疫②</td><td></td></tr></table>						1. 微生物について	14. 免疫③	2. 微生物の一般性状①	15. 滅菌と化学療法①	3. 微生物の一般性状②	16. 滅菌と化学療法②	4. 微生物の代謝	17. 口腔細菌①	5. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン①	18. 口腔細菌②	6. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン②	19. 実習①	7. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン③	20. 口腔細菌③	8. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン④	21. 実習②	9. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン⑤	22. 試験	10. 感染と発症①	23. 解説	11. 感染と発症②		12. 免疫①		13. 免疫②	
1. 微生物について	14. 免疫③																														
2. 微生物の一般性状①	15. 滅菌と化学療法①																														
3. 微生物の一般性状②	16. 滅菌と化学療法②																														
4. 微生物の代謝	17. 口腔細菌①																														
5. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン①	18. 口腔細菌②																														
6. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン②	19. 実習①																														
7. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン③	20. 口腔細菌③																														
8. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン④	21. 実習②																														
9. リケッチア・クラミジア・真菌 ウイルス・プリオン⑤	22. 試験																														
10. 感染と発症①	23. 解説																														
11. 感染と発症②																															
12. 免疫①																															
13. 免疫②																															
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ちおよび回復過程の促進2 微生物学			[単位認定の方法及び基準] ペーパーテストにより評価する。																												

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 薬理学・歯科薬理学		担当者 今井康夫, 本山直世
種類 (講義・演習・実習)	回数 17回	時間数(単位数) 32時間 (2単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 薬物の作用についての基本概念を分子，細胞，個体レベルで理解する。 [内容の概要] 薬物全般について，その作用機序，副作用，他の薬物との相互作用等を理解し，薬物を適切に使用するための知識を習得する。 [修了時の達成課題（到達目標）] 医療，とくに歯科医療の現場で用いられる薬物の薬物動態，作用機序，相互作用，有害作用について学び，各種疾患の治療，予防のための薬物使用について基本的な考え方を理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 ガイダンス・薬理学総論① (総論1章，2章) 2 薬理学総論② (総論3章，4章) 3 薬理学総論③ (総論5章，6章) 4 薬理学総論④ (総論7章，8章)，復習 5 ビタミンとホルモン，末梢神経作用薬，中枢神経作用薬 (各論1章，2章，3章) 6 循環器系・腎臓・呼吸器系作用薬 (各論4章，5章，6章) 7 消化器系・血液作用薬 (各論7章，8章) 8 免疫と薬物，悪性腫瘍と薬物 (各論9章，10章) 9 代謝性疾患治療薬，炎症と薬物 (各論11章，12章) 10 痛みと薬物，局所麻酔薬 (各論13章，14章) 11 抗感染症薬，和漢薬 (各論15章，21章)，復習 12 復習 13 消毒薬・歯科用薬物① (各論16～20章) (本山) 14 消毒薬・歯科用薬物② (各論16～20章)・その他 (本山) 15 復習 16 期末試験 17 試験解説			
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 疾病の成り立ち及び回復過程の促進3 薬理学第2版 医歯薬出版		[単位認定の方法及び基準] 期末試験の成績に，講義態度や小テスト、提出物等による平常点を加えて総合的に判断する.	

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 生化学・口腔生化学		担当者 能城 光秀	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 18時間 (1単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] ヒトの体を構成する多様な物質の基本的な構造や役割について理解する。また，口腔組織や口腔細菌内で起こる代謝を2年次で学ぶための基礎的な事項について学習する。 [内容の概要] タンパク質，糖質，脂質の化学的性質，生体内での代謝とそれによって生体の恒常性がどのように維持されているか、また生命における水の重要性について学ぶ。 [修了時の達成課題（到達目標）] 基本的な生体分子の性質・役割・代謝について理解し，説明ができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 序論，水，pH 2 糖 3 脂質，タンパク質（1） 4 タンパク質（2） 5 糖質と脂質の代謝 6 タンパク質の代謝 7 エネルギー代謝 8 恒常性の維持 9 期末試験とまとめ 10 試験解説					
教科書 歯科衛生学シリーズ人体の構造と機能2 生化学・口腔生化学 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 最終試験、小テスト、レポートなどの結果により評価する。出席および授業態度も評価に加える。		

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 生化学・口腔生化学		担当者 能城 光秀	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 11 回	時間数(単位数) 18時間 (1単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期	
[目的・ねらい] 1年次に学んだ生化学の知識と，口腔解剖学，口腔組織学，口腔病理学，口腔微生物学等の知識を結びつけ，齲蝕，歯周病などのメカニズムを総合的に理解する。					
[内容の概要] 口腔にみられる種々の組織の構成成分，エナメル質の石灰化や脱灰，骨吸収，唾液の働き，糖をもとにした酸の生成等について生化学的に学習する。後半は実習を通じて知識をさらに体系化する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 口腔組織（歯と歯周組織）の生化学的な性質を理解し，齲蝕，歯周病の成立の機序を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 口腔生化学：歯と歯周組織の生化学 2 口腔生化学：硬組織の生化学 3 口腔生化学：唾液の生化学 4 口腔生化学：プラークの生化学 5 口腔生化学：まとめと実習用講義 6 実習（1）デンプンの調製と観察 7 実習（1） 〃 8 実習（2）唾液アミラーゼによる デンプン消化 9 実習（2） 〃 10 まとめと期末試験 11 試験解説					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、実習レポートの評価，受講態度より総合的に評価する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 栄養学		担当者 能城 光秀、藤本 勝巳
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 1 4 回	時間数(単位数) 2 0 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 健康の維持・増進のための食生活の重要性や食品に含まれる栄養成分について理解し、栄養指導のための基礎となる能力を養う。 [内容の概要] 講義中心で行う。教科書の内容をより深く理解してもらうために、生化学や生理学の知識を加えて栄養学をより詳しく説明する [修了時の達成課題（到達目標）] 栄養素の種類・生理機能・代謝・必要量について理解する。また、現代の日本人の食生活の特徴や問題点について理解する。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 栄養学の基礎知識 2. 糖質 3. 脂質 4. タンパク質 5. 核酸 6. 中間試験 7. 中間試験解説 8. 日本人の食事摂取基準 9. エネルギー代謝 10. ビタミン 11. 無機質、食生活 12. 食品、食品のう蝕誘発性 13. 期末試験 14. 期末試験解説			
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 人体の構造と機能 栄養学 医歯薬出版株式会社		[単位認定の方法及び基準] 中間試験及び期末試験	

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 理工学・歯科理工学		担当者 森 安曇	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 16回	時間数(単位数) 32時間 (2単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科材料および機器の性質および取り扱い方法を、歯科衛生士の立場から、実際の診療の流れに基づいて理解を深める。					
[内容の概要] 歯科材料の成分や取り扱い方法だけでなく、材料の基本的性質および安全性についても考慮し、一連の歯科治療の流れの中で、歯科材料および機器の扱い方を習得できるように、各術式も踏まえて講義してゆく。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科診療において、歯科材料および機器の基礎を十分に習得し、臨床においても臨機応変に対応できる専門性の高い歯科衛生士となれるための基本を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 歯科材料の基礎知識 2 印象材Ⅰ 3 印象材Ⅱ 4 模型材 5 合着材・接着材Ⅰ 6 合着材・接着材Ⅱ 7 まとめ① 8 中間試験 9 解説 10 歯冠修復材Ⅰ 11 歯冠修復材Ⅱ 12 仮封材 13 その他歯科材料Ⅰ 14 まとめ② 15 期末試験 16 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] イラストと写真でわかる歯科材料の基礎 永末出版			[単位認定の方法及び基準] 中間試験、期末試験、提出物、及び授業態度、出席率を総合的に判断し、評価を行う。		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 衛生学・公衆衛生学		担当者 天野 秀昭	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10 回	時間数(単位数) 18時間 (1単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 集団を対象とした疾病予防と健康増進について、その概念および基礎知識について理解を深める。					
[内容の概要] 健康を左右する環境、健康と予防医学の概念、地域保健活動の内容などについて、講義を中心にして理解を深める。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 公衆衛生的なものの方、考え方ができる。歯科衛生士として地域保健活動に参画するための基礎知識を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 総 論 2 疫学、人口 3 健康と環境 4 感染症、食品と健康 5 地域保健 6 母子保健、学校保健 7 成人・老人保健 8 産業保健 9 試 験 10 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験およびレポートを評価の対象とする		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 口腔衛生学A		担当者 天野 秀昭	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 16時間 (1単位)		配当学年・時期 1学年 前期 後期
[目的・ねらい] 口腔衛生学は、口腔の疾患を予防し、口腔の健康増進を目指すための学問です。口腔衛生学Aでは、解剖学、微生物学、生理学・・・など多くの他教科を十分に復習しながら、歯科衛生士の専門である齲蝕・歯周病・口臭の予防について学んでいきます。 [内容の概要] 教科書の内容を中心に、歯科衛生士に強く求められる知識については、特に板書を交えて解説していきます。また、毎回の授業開始時に、前の回の授業の復習を兼ねた小テストを行います。 [修了時の達成課題（到達目標）] 歯科予防処置、歯科保健指導を中心とした歯科衛生士の専門業務に必要な知識を、他の基礎科目で既習の知識を有機的に関連づけて修得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 第1回 総説① 第2回 総説② 第3回 総説③ 第4回 齲蝕の予防① 第5回 齲蝕の予防② 第6回 齲蝕の予防③，歯周病の予防① 第7回 歯周病の予防② 第8回 歯周病の予防③，口臭の予防 第9回最終試験 第10回 試験のフィードバックと国家試験問題の解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 - 口腔保健統計を含む一 学建書院			[単位認定の方法及び基準] 期末試験の成績を基本とし、毎回行う小テストの成績に基づいて土約5点以内の加減点を行い、その結果から成績判定を行います。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 口腔衛生学B		担当者 廣瀬 桃子	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 1 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科衛生士として必要な口腔衛生学の知識を養う。					
[内容の概要] 口腔保健指導を行うための基礎的な歯科の知識および歯科疾患の指標についての理解を深める。 [修了時の達成課題（到達目標）] 口腔清掃および口腔保健指導や地域保健活動の基礎となる知識の習得と 歯科疾患の指標が理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 概論 2 口腔清掃指導 1 3 口腔清掃指導 2 4 う蝕の予防 5 歯周病の予防 6 その他の歯科疾患の予防 7 歯科疾患の指標・歯科保健統計 8 地域口腔保健活動 1 9 地域口腔保健活動 2 ・ 試験について 10 試験 11 試験解説・まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生士テキスト 口腔衛生学 学建書院			[単位認定の方法及び基準] 期末試験 課題		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科衛生統計		担当者 内藤/浅枝/倉脇/鶴田	
種類 (講義・演習・実習)		回数 10回	時間数(単位数) 18時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科臨床や公衆衛生の場面において使用される歯科の指数を理解し、患者の状態やその地域の状態を把握できる能力を養う					
[内容の概要] 歯科で使用されるさまざまな指数を使用し、統計的手法を学ぶ					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科で使用される指数を個々の患者への教育・指導、または公衆衛生の現場で利用できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 (10/1) 1 章 保健情報と保健統計【担当：鶴田】 2 (10/8) 3 章①-③ 歯科疾患の指数Ⅰ【担当：浅枝】 3 (10/15) 3 章④-⑦ 歯科疾患の指数Ⅱ【担当：浅枝】 4 (10/22) 4 章 保健情報の分析手順【担当：浅枝】 5 (10/29) 2 章 保健情報と疫学【担当：内藤】 6 (11/5) 5 章 保健統計の方法【担当：倉脇】 7 (11/12) 6 章 保健情報の分析演習【担当：倉脇】 8 (11/19) 7 章 情報の保護と倫理【担当：倉脇】 9 (11/26) 試験【担当：鶴田】 10 (12/3) 試験解説【担当：鶴田】					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ「保健情報統計学」 (一社) 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] ・小テスト（授業中に適宜実施） ・第9回 試験		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 衛生行政・社会福祉学		担当者 天野 秀昭	
種類 (講義・演習・実習)		回数 10回	時間数(単位数) 18時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 今日の医療は地域を主体とした包括的な保健医療体制が求められており，さらに福祉との連携が必要である。歯科衛生士として必要な衛生行政の仕組みや保健医療，さらに社会福祉などの基礎知識を得る。 [内容の概要] 衛生行政・社会福祉学では日本の保健・医療・福祉制度と医療に関する法律・制度を理解し、社会の制度と社会の姿について理解を深め歯科衛生の在り方を考える。 [修了時の達成課題（到達目標）] 衛生関係法、厚生関係調査について説明できる。 厚生関係調査について説明できる。 行政における歯科衛生士の活動について説明できる。 社会福祉について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 衛生行政 (1) 衛生行政の目的・沿革 2 衛生行政 (2) 衛生行政の組織 3 衛生関係法 (1) 概論 医師法・歯科医師法 4 衛生関係法 (2) 歯科衛生士法 5 衛生関係法 (3) 関連する医療関係者・医療に関する法規 6 衛生関係法 (4) 地域保健に関する法規 7 保健医療の動向 厚生関係統計調査など 8 我が国および世界の保障制度・社会保険・社会福祉 9 試験 10 解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み2 保健・医療・福祉の制度 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 期末試験を評価の対象とします。		

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科衛生士概論	担当者 専任教員
種類 (講義・演習・実習)	回数 16回	時間数(単位数) 32時間(2単位)
配当学年・時期 1学年 前期 後期		
[目的・ねらい] 歯科衛生を実践して人びとの健康づくりを支援する者となるために、保健医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識・技術を修得する態度および論理的思考法の基礎を修得する。また、生涯にわたって学ぶ習慣を身につけるために、基礎学力の向上を図る。 [内容の概要] 歯科衛生士の歴史、法的性格と業務内容の要点、歯科衛生士としての心構え、口腔保健・医療を実践する上で不可欠な歯科医療倫理について講義を行い、歯科衛生士に必要な基本的な素養を養う。 [修了時の達成課題(到達目標)] 歯科衛生士という職業についての概略を理解し、歯科衛生士の業務や職業倫理について説明できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. オリエンテーション(森) 2. 歯科予防処置総論(末永) 3. 1, 2年生交流 4. 歯科保健指導総論(植松) 5. 歯科診療補助総論(廣瀬) 6. 歯科衛生士の概要(歴史など)(植松) 7. 歯科衛生活動の対象者とそのかわり方(末永) 8. 歯科衛生士の業務の展開(廣瀬) 9. 医療倫理(森) 10. セミナー 11. セミナー 12. 特別講義(上間京子先生) 13. 全国小学生歯みがき大会(視聴) 14. セミナー 15. セミナー(仮) 16. 試験		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 期末試験、出席状況、授業態度、提出物を総合的に判断し、60点以上を合格とする。期末本試験で60点未満の場合は、再試験を受験しなければならない。再試験で59点以下の場合は単位を与えない。

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科医学概論・臨床概論		担当者 専任教員	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 1 回	時間数(単位数) 2 0 時間 (1 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科にかかわる人びとの業務内容，現状とその問題点，歴史および将来の展望などを学び，歯科の世界を包括的に理解する。また，3年間の学びの質を高めるため勉強方法，基礎学力などを改善する。					
[内容の概要] 1) 歯科の歴史，現状を学び，将来像について考察する。 2) 歯科で扱う諸疾患の治療の流れについて学ぶ。 3) 患者と医療人の望ましい関係について学ぶ。 4) 歯科医学の勉強の基礎となる読み書きのトレーニングを行う。 5) 生命科学の際限のない広さの中で知識をいかに系統的に身につけるかを考える。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科で扱う疾患の治療の流れや，患者と医療人の関係について理解する。基礎的な歯科用語を理解し，それらの読み書きと，他科目の履修に必要な単位変換などの計算が正しくできるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 読む力をどう育むか（今井） 2 歯科医師の業務，歯科の歴史（今井） 3 歯科をめぐる社会の動き，B型肝炎について（今井） 4 保存修復学（植松） 5 歯内療法（植松） 6 矯正歯科学（廣瀬） 7 小児歯科（森） 8 歯科補綴学（末永） 9 高齢者歯科学（末永） 1 0 口腔外科（森） 1 1 期末試験					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 期末試験結果を重視し、出席，小テスト結果，レポート，受講態度等を加味して評価する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 審美歯科		担当者 西中村 亮	
種類 (講義・演習・実習)		回数 10回	時間数(単位数) 18時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 顎口腔領域における形態美・機能美・色彩美の調和からなる歯科審美を学び、患者の身体的・社会的・心理的問題点を改善できるプロフェッショナルな立場に立つ歯科衛生士としての役割・業務を理解する。					
[内容の概要] 審美性に係る知識と具体的な治療法（審美補綴物・歯列矯正・漂白・歯周形成外科等）を学べるよう、講義を中心に進め、理解が深められるよう実習を交えていく。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科衛生士の立場から、身体的・社会的・心理的問題点をもつ患者に対して歯科審美のアプローチができるよう、意義・必要性について理解できる。審美性のある治療法について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 審美歯科 総論① 2. 審美歯科 総論②、審美性の高い修復物・補綴物① 3. 審美性の高い修復物・補綴物② 4. 矯正歯科① 5. 歯周形成外科 6. 矯正歯科②、ホワイトニング 7. 実習① 8. 実習② 9. 審美歯科 まとめ 10. 試験・試験解説					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 講義毎の出席、小テスト（20%） 講義後の試験（80%）		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保存学A		担当者 片岡 郁博	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 10回	時間数(単位数) 18時間 (1単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科医療の中での保存修復の位置付けを知り、臨床に進むにあたって必要となる基本的な知識を身に着ける。					
[内容の概要] テキストの内容を理解するための解説を中心とする。 専門用語の意味・各手順の理由について説明する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] テキストの記述を疑問なく理解できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 保存修復学 総論 歯の保存療法とは 2. 保存修復学 各論 保存修復の概要 3. 保存修復学 各論 コンポジットレジン修復 4. 保存修復学 各論 コンポジットレジン修復・セメント修復 5. 保存修復学 各論 間接法修復の概要 6. 保存修復学 各論 メタルインレーおよびアンレー修復 7. 保存修復学 各論 セラミックインレー修復・ベニア修復 8. 保存修復学 各論 合着材および接着材 9. 試験 10. 試験解説					
[使用テキスト] 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学			[単位認定の方法及び基準] 主に期末試験の結果を評価の対象とする。		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保存学B		担当者 大坪 宏	
種類 (講義・演習・実習)		回数 12回	時間数(単位数) 18時間(1単位)		配当学年・時期 2学年前期後期
[目的・ねらい] 歯内療法に関する知識を習得し、考察を通して理解する。					
[内容の概要] 硬組織疾患から起こる歯髄及び根尖歯周組織疾患の病状及び治療法、予防法を学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科衛生士としての業務・役割を念頭に臨床現場で必要な知識を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 歯内療法の概要、分類、原因、症状 2. 歯内療法における器具、材料 3. 歯内療法における器具、材料 4. 歯髄の除去療法、デモ実習 5. 根管治療、ラバーダムデモ実習 6. 根管充填、根未完成歯の処置 7. 小児の根管治療、外科的歯内療法 8. 歯の外傷、歯内療法における安全対策 9. 歯内療法における歯科衛生士の役割、診療補助 10. ホワイトニング（ホーム、オフィス） 11. 試験 12. 解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 保存修復学・歯内療法学			[単位認定の方法及び基準] 定期試験の成績を主とし、随時実施する小テストの成績を加味して評価する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保存学C		担当者 水野 智仁	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 2 回	時間数(単位数) 1 8 時間 (1単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
歯周病学に関する知識を習得し、「考える歯科衛生士」を育てる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 歯周病学概説（歯周治療とは） 2. 正常な歯周組織の構造と機能 3. 歯周病の分類と原因 4. 歯周病と全身疾患（ペリオドンタルメディシン） 5. 歯周治療の進め方・歯周病の検査 6. 歯周基本治療 7. 歯周外科治療 8. 口腔機能回復治療 9. メインテナンス・SPT 10. 歯周治療における歯科衛生士の業務 11. 試験 12. 解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ「歯周病学」 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 試験結果や、出席、授業態度など総合的に評価する		

2024年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科補綴学A		担当者 赤川 安正	
種類 (講義・演習・実習)		回数 13回	時間数(単位数) 18時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科補綴学の基礎知識を学び、補綴歯科治療に貢献できる歯科衛生士になる。					
[内容の概要] 有床義歯治療とインプラント治療に関する基礎知識を学び、歯科衛生士の役割が理解できるよう講義する。					
[修了時の達成課題(到達目標)] 歯科補綴学の基礎知識を学び、有床義歯・インプラント治療における歯科衛生士としての役割を理解する。					
「授業の日程と各界のテーマ・内容」 1. 歯科補綴の概要(4/9) 2. 補綴歯科治療の基礎知識(4/16) 3. 補綴歯科治療における検査(4/23) 4. クラウン・ブリッジ治療(1)(5/7) 5. クラウン・ブリッジ治療(2)(5/14) 6. 全部床義歯治療(1)(5/21) 7. 全部床義歯治療(2)(5/28) 8. 部分床義歯治療(1)(6/4) 9. 部分床義歯治療(2)(6/11) 10. インプラント治療(6/18) 11. 特殊な治療・器材の管理(6/25) 12. 期末試験(7/2) 13. 解説(7/9)					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学			[単位認定の方法及び基準] 出席、授業態度、試験を総合的に評価する。		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科補綴学B		担当者 玉本 光弘	
種類 (講義・演習・実習)		回数 14回	時間数(単位数) 18時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯冠部の実質欠損あるいは1歯～全歯欠損や周囲組織の欠損を、人工材料（補綴装置）で補って喪失あるいは低下した機能（食物摂取、咀嚼、嚥下、発音）と審美性の回復および改善を図るとともに、咀嚼系（歯、歯の支持組織、顎関節、下顎骨に付着する筋、口唇、舌ならびに各組織に分布する血管系と神経系）の異常を予防することに関する理論と技術を考究するクラウン・ブリッジ・インプラント補綴学を修得する。 [内容の概要] クラウン・ブリッジ・インプラント補綴学の定義、分類、具備要件、生物学的要件、審美性に関する要件、歯冠補綴材料の選択、臨床編として前準備（検査、補綴前処置、診療計画と設計）、臨床処置、診療補助などについて概要を把握すると共に補綴学用語についての知識を集積・習得する。 [修了時の達成課題（到達目標）] クラウン・ブリッジ・インプラント治療について理解する。クラウン・ブリッジ・インプラントの種類を理解する。顎関節症について理解する。歯科金属アレルギーについて理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 歯科補綴学概論 2 クラウン・ブリッジの種類と要件 3 クラウンの製作手順 4 支台築造，支台歯形成とマージン形態 5 印象材の種類，印象の方法 6 テンポラリークラウン，咬合採得 7 クラウン・ブリッジの装着とセメント 8 顎関節症概論 9 インプラント概論 10 歯科金属アレルギー概論 11 スポーツ歯科概論 12 オーラルアプライアンス治療 13 試験 14 試験解説 まとめ					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科補綴学 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版			[単位認定の方法及び基準] 出席点 15%，レポート 10%，試験 75%を参考に総合的に評価する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 顎・口腔外科学		担当者 谷 亮治・小泉 浩一	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 12回	時間数(単位数) 18時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 臨床の場で、口腔のみならず患者の基礎疾患や既往などの背景や家族的・社会的状況を理解して対応できる知識と技能を養う。					
[内容の概要] さまざまな口腔外科疾患を理解するとともに、全身疾患を有する患者の口腔管理や周術期の患者管理について理解を深める。					
[修了時の達成課題（到達目標）] さまざまな口腔外科疾患の病態や治療について理解できる。また、口腔のみならず患者の基礎疾患や既往などの背景や家族的・社会的状況を理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 口腔外科の概要 2 顎・口腔領域の先天異常と発育異常 3 顎・口腔領域の損傷および機能異常 4 口腔粘膜の病変 5 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患 6 顎・口腔領域の嚢胞性疾患 7 顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患 8 唾液腺疾患 9 口腔領域の神経疾患 10 口腔外科診療の実際 11 試験 12 解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学 第2版 医歯薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 試験結果と出席状況		

学科名 歯科衛生学科		科目名 小児歯科学		担当者 香西 克之	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 4 回	時間数(単位数) 1 8 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 小児期の成長発達の概要，口腔疾患の原因，治療および予防，さらに健全な口腔育成のための役割に関する基本的知識を修得するとともに，歯科衛生士としての小児歯科での役割について考える。					
[内容の概要] 小児期の心身および顎顔面の発育，生理的特徴，歯や歯列および咬合の発育と異常，患児への対応，小児歯科の診療体系，障害児の歯科医療，齲蝕予防，診察補助，小児の口腔保健など					
[修了時の達成課題（到達目標）] ①小児の口腔の成長発達を説明できる。②小児口腔疾患の原因，治療，予防について説明できる。③小児の対応法について説明できる。④小児の口腔保健について説明できる。⑤小児歯科の診療補助について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1．小児歯科学概論，心身の発育，小児の生理的特徴，顔面頭蓋の発育 2．歯の発育とその異常，歯列・咬合の発育と異常 3．小児の歯科疾患，小児虐待 4．小児期の特徴と歯科的問題点，小児歯科における患者との対応法【1】 5．小児歯科における患者との対応法【2】 6．小児歯科における診療体系【1】 7．小児歯科における診療体系【2】 8．小児歯科における診療体系【3】 9．小児歯科における診療体系【4】 1 0．障害児の歯科治療 1 1．う蝕予防 1 2．小児の口腔健康管理，歯科診療室と器材の管理 1 3．期 末 試 験 1 4．試 験 解 説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 小児歯科学 医歯薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験と出席状況で評価する。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科矯正学		担当者 麻川 由起	
種類 (講義・演習・実習)		回数 12回	時間数(単位数) 18時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 将来歯科衛生士として矯正歯科治療にどのように携わるか理解するために、歯科矯正学の基本的な知識を修得する。					
[内容の概要] スライド映写での講義を中心に、矯正歯科学を学びやすいよう、身近な事象とからめながら授業を行い、矯正歯科治療に用いる装置や器具は、実際に手に取って見れるような演習も交える。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 衛生士として矯正歯科治療の重要性・必要性について理解し、患者に対し指導できるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. 歯科矯正学概論 2. 成長・発育 3. 正常咬合と不正咬合 4. 口腔習癖 5. 矯正治療の生物力学 6. 矯正診断に関する知識 7. 矯正治療に用いる器材 8. 矯正装置 9. 保定・総括 10. 試験 11. 解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科矯正学 医歯薬出版株式会社			[単位認定の方法及び基準] 授業への出席状況、試験（小テスト3点×10回+本試験70点満点→60点以上が合格とする		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科放射線学		担当者 中元・大塚・小西
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 9 回	時間数(単位数) 1 8 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科放射線診断・治療を行う際に必要となる知識、基礎的手技を身に着ける。放射線防護に関する正しい知識を身に着ける。			
[内容の概要] 放射線に関する基礎知識、歯科診療時に使用される撮影法およびその読影、放射線防護、放射線治療の概要について講義する。パノラマX線撮影、口内法X線撮影の診療介助の手技を実習する。			
[修了時の達成課題（到達目標）] 放射線に関する基礎知識および歯科放射線撮影・治療の診療介助、放射線防護に関する正しい知識を持つ。歯科放射線撮影時の歯科衛生士の役割を理解し、手技を実践できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1． 歯科診療における放射線・放射線の基礎知識（大塚） 2． 放射線の人体への影響・放射線治療（大塚） 3． 放射線防護・エックス線画像の形成（小西） 4． エックス線画像検査と補助・画像診断① 口内法エックス線撮影（中元） 5． エックス線画像検査と補助・画像診断② パノラマエックス線撮影（中元） 6． エックス線画像検査と補助・画像診断③ その他の画像診断法 写真処理と画像保管、品質保証（中元） 7． パノラマX線撮影・口内法X線撮影の実践（中元） 8． 期末試験 9． 試験解説講義（中元）			
[使用テキスト・参考文献] 永末書店 歯科衛生士講座 歯科放射線学 （金田隆、奥村泰彦、村上秀明 著）		[単位認定の方法及び基準] 7回の授業終了後、試験を行う。 60点以上の者を合格とする。	

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 麻酔学・歯科麻酔学		担当者 入船 正浩	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 2 回	時間数(単位数) 1 8 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 麻酔学・歯科麻酔学の講義を通して、医療従事者として必要な患者の全身状態評価、全身管理、侵襲制御および心肺蘇生法についての知識を養う。					
[内容の概要] 講義の目的・ねらいを達成するために循環・呼吸の生理学、成人病についての内科学、全身管理に必要な薬理学および心肺蘇生法について概説する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 医療従事者として必要な患者の全身状態評価、全身管理、侵襲制御および心肺蘇生法についての基礎的知識を身に付ける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1．麻酔学概論 2．循環生理学 3．呼吸生理学 4．全身状態評価 5．全身麻酔法モニタリング（バイタルサインなど） 6．全身麻酔法 7．精神鎮静法 8．局所麻酔法 9．歯科治療時の全身的偶発症 1 0．心肺蘇生法（B L S） 1 1．試験 1 2．解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 口腔外科学・歯科麻酔学			[単位認定の方法及び基準] 出席、受講態度（10％）および試験の評価（90％）をもって充てる。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 臨床検査学		担当者 新谷智章・安藤俊範	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 回	時間数(単位数) 18時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科医療に携わる一員である歯科衛生士として必要な、口腔に発生する疾患の予防、診断・治療あるいはそれらに影響を与える全身疾患や感染症などに関する検査の基礎的知識（検査の意義、方法、結果の解釈など）を修得する。					
[内容の概要] 検査についての総論、口腔に特有のう蝕、歯周病、口腔乾燥症などに関する検査、感染症についての検査とその予防、罹患者が多く、歯科治療に影響を与える可能性のある全身疾患などを総合的に学ぶ。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科疾患の予防、診断・治療に必要な検査について理解できる。代表的な全身疾患の検査と感染症の検査と予防について理解できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1. う蝕と根尖性歯周炎の検査 2. 病理検査 3. ドライマウス（口腔乾燥症）の検査 4. 金属アレルギーの検査 5. 味覚異常の臨床と検査，咬合異常の検査 6. 口臭の検査，貧血，出血を起こす疾患と検査 7. 辺縁性歯周炎の検査，咀嚼・嚥下の検査 8. 一般的な感染症の検査，ウイルス性肝炎の検査と針刺し事故時の対応 9. 代謝性疾患（糖尿病、高脂血症など）の検査 10. 試験 11. 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 臨床検査			[単位認定の方法及び基準]		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 高齢者歯科学		担当者 赤川 安正	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 超高齢社会における高齢者の ADL および QOL 向上に寄与する口腔保健の基礎的な知識を学び、高齢者歯科に貢献できる歯科衛生士になる。					
[内容の概要] 高齢者の特徴や高齢者に多発する全身並びに口腔の疾患等を学び、それらに対する対応や処置を理解できるよう、口腔ケアや摂食・嚥下リハビリテーションを中心に講義する。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者における全身的並びに口腔の問題を学び、これらの問題に対する歯科衛生士が取り組む対策や処置法を理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 高齢者をとりまく環境 (10/3) 2 加齢による身体的・精神的変化と疾患 (10/10) 加齢に伴う身体的・精神的変化の概要と高齢者に多い疾患 3 高齢者の状態の把握 (10/17) 高齢者の生活機能の評価方法や臨床検査の内容、栄養状態の評価等 4 口腔のケア (10/24) 高齢者・有病高齢者・要介護高齢者への口腔ケア 5 摂食・嚥下リハビリテーション1 (10/31) 高齢者のリハビリテーションの概要 摂食・嚥下評価と対応について 6 摂食・嚥下リハビリテーション2 (11/7) 在宅訪問歯科診療や介護施設における摂食・嚥下リハビリテーション 7 高齢者に関わる医療と介護、高齢者歯科における歯科衛生過程 (11/14) 8 試験 (11/21) 9 試験解説 (11/28)					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 高齢者歯科学			[単位認定の方法及び基準] 出席、授業態度、試験を総合的に評価する。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 障害者歯科学		担当者 岡田 芳幸・朝比奈滉直	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 8 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 障害の種類・特性を正しく理解し、歯科衛生士に必要な障害者への対応法などに関する知識・態度・技能を習得する。					
[内容の概要] 「歯科衛生士講座 障害者歯科学」を中心に講義を進める。 教科書に基づいた内容で、障害者歯科学における歯科保健の重要性について学んでいく。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 障害者歯科での歯科衛生士に求められる役割を理解し、障害の種類に応じた対応法を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 障害者歯科学の概念（第 1 ～ 3 章） 2 障害の分類と特徴（第 4 章） 3 障害者歯科の診療補助（第 5 章） 4 全身管理と行動調整（第 6 ～ 7 章） 5 口腔ケアと管理（第 8 章） 6 機能訓練と予防処置（第 9 ～ 1 0 章） 7 医療連携・まとめ（第 1 1 章） 8 試験					
[使用テキスト・参考文献] 永末書店「歯科衛生士講座 障害者歯科学」			[単位認定の方法及び基準] 最終授業時に行う試験、出席状況および授業態度等を基準とし、総合的に評価する。		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科予防処置		担当者 専任教員																			
種類 (講義・演習・実習)		回数 18回	時間数(単位数) 36時間(2単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期																			
[目的・ねらい] 歯科予防処置は歯科衛生士の独占業務であり、臨床においても歯科衛生士に任される重要な業務である。 。歯科衛生士が行う歯科予防処置の目的・方向・手技について講義を通して、歯科衛生士が行う専門的な業務内容を学び、歯科疾患の予防方法を理解することを目的とする。																							
[内容の概要] 歯科臨床に即した歯周病予防処置法及び感染予防に関する知識を習得する。																							
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科臨床に即した歯周病予防処置法及び感染予防に関する知識、患者への対応を習得する。																							
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 健康な口腔内とは</td><td>10 フッ化物の応用Ⅰ</td></tr><tr><td>2 口腔内の付着物・沈着物</td><td>11 フッ化物の応用Ⅱ</td></tr><tr><td>3 齲蝕</td><td>12 歯周病</td></tr><tr><td>4 齲蝕予防処置と唾液</td><td>13 プロービング</td></tr><tr><td>5 齲蝕活動性試験</td><td>14 スケーリング</td></tr><tr><td>6 齲蝕活動性試験</td><td>15 各種指数（Index）</td></tr><tr><td>7 歯面研磨</td><td>16 各種指数（Index）</td></tr><tr><td>8 前期期末試験</td><td>17 後期期末試験</td></tr><tr><td>9 試験解説</td><td>18 試験解説</td></tr></table>						1 健康な口腔内とは	10 フッ化物の応用Ⅰ	2 口腔内の付着物・沈着物	11 フッ化物の応用Ⅱ	3 齲蝕	12 歯周病	4 齲蝕予防処置と唾液	13 プロービング	5 齲蝕活動性試験	14 スケーリング	6 齲蝕活動性試験	15 各種指数（Index）	7 歯面研磨	16 各種指数（Index）	8 前期期末試験	17 後期期末試験	9 試験解説	18 試験解説
1 健康な口腔内とは	10 フッ化物の応用Ⅰ																						
2 口腔内の付着物・沈着物	11 フッ化物の応用Ⅱ																						
3 齲蝕	12 歯周病																						
4 齲蝕予防処置と唾液	13 プロービング																						
5 齲蝕活動性試験	14 スケーリング																						
6 齲蝕活動性試験	15 各種指数（Index）																						
7 歯面研磨	16 各種指数（Index）																						
8 前期期末試験	17 後期期末試験																						
9 試験解説	18 試験解説																						
[使用テキスト・参考文献] ・ 歯科予防処置論・歯科保健指導			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、小テスト、授業態度、出欠席を総合して評価する。 また、提出物がある場合はこれも評価の対象とする。 総合評価60点以下の場合再試験を行う。 再試験は再試験のみを評価の対象とする。																				

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科予防処置		担当者 末永 由美	
種類 (講義・演習・実習)		回数 9回	時間数(単位数) 18時間(1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科予防処置は歯科衛生士の独占業務であり、臨床においても歯科衛生士に任される重要な業務である。歯科衛生士が行う歯科予防処置の目的・方向・手技について講義を通して、歯科衛生士が行う専門的な業務内容を学び、歯科疾患の予防方法を理解することを目的とする。 また、コミュニケーション能力を高め、学んだ専門知識で患者さんに的確に伝えられる能力を深めていく事を目的とする。					
[内容の概要] 臨床実習時や歯科臨床に即した歯周病予防処置法及び感染予防に関する知識を習得する。					
[修了時の達成課題(到達目標)] 臨床実習時や歯科臨床に即した歯周病予防処置法及び感染予防に関する知識、患者への対応を習得する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 口腔内診査 2 超音波スケーラー・エアースケーラー 3 手用スケーラー・シャープニング 4 歯面研磨・歯面清掃 5 フッ化物の応用Ⅰ 6 フッ化物の応用Ⅱ 7 小窩裂溝填塞法 8 期末試験 9 解説					
[使用テキスト・参考文献] ・ 歯科予防処置論・歯科保健指導 ・ 口腔衛生学 ・ 保健生態学			[単位認定の方法及び基準] 期末試験及び授業態度、出欠席、小テスト、提出物を総合評価する。 総合評価60点以下の場合再試験を行う。 再試験は再試験のみを評価の対象とする。		

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科予防処置	担当者 末永 由美
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (2 単位)
配当学年・時期 3 学年 前期 後期		
[目的・ねらい] 歯科予防処置は歯科衛生士の独占業務であり、臨床においても歯科衛生士に任される重要な業務である。歯科衛生士が行う歯科予防処置の目的・方向・手技について講義を通して、歯科衛生士が行う専門的な業務内容を学び、歯科疾患の予防方法を理解し、国家試験も意識した学習を目的とする。 また、コミュニケーション能力を高め、学んだ専門知識で患者さんに的確に伝えられる能力を深めていく事を目的とする。 [内容の概要] 歯科臨床に即した歯周病予防処置法及び感染予防に関する知識を習得する。さらに、国家試験を意識した知識も習得できるようにする。 [修了時の達成課題（到達目標）] 歯科臨床に即した歯周病予防処置法及び感染予防に関する知識、患者への対応を習得する。 さらには、国家試験に合格できる実力をつける。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 チェックテスト、シラバス説明 2 小窩裂溝填塞法（ファントム側） 3～4 小窩裂溝填塞法（相互実習）、 グレーシーキュレットスケーラー（ファントム側） 5～7 演習 8 チェックテスト 9 国対 歯科予防処置・口腔内診査（教室） 10 国対 口腔内の付着物・沈着物（教室） 11 国対 齲蝕・齲蝕活動性試験（教室） 12 国対 フッ化物の応用（教室） 13 国対 フッ化物の毒性と代謝（教室） 14 国対 歯周病（教室） 15 国対 手用スケーラー・シャープニング（教室） 16 国対 超音波スケーラー・エアースケーラー・ 歯面研磨（教室） 17 国対予備（教室） 18 期末試験（教室）		
[使用テキスト・参考文献] ・歯科予防処置論・歯科保健指導 ・口腔衛生学 ・保健生態学 ・歯科衛生士国試対策集		[単位認定の方法及び基準] 期末試験及び授業態度、出席、提出物、チェックテストなどを総合評価する。 単位修得のためには、チェックテスト、期末試験で合格していることとする。 総合評価 6 0 点以下の場合再試験を行う。 再試験は再試験のみを評価の対象とする。

I G L 医療福祉専門学校

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 歯科予防処置実技実習Ⅰ		担当者 末永 由美
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 3 6 回	時間数(単位数) 7 2 時間 (2 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。			
歯科医院での10年以上の臨床経験があり、多くの臨床経験から得た知識技術の中で、基礎的な知識・技術の習得を目的とし教育を行っている。			
[目的・ねらい]			
歯科衛生士が行うことのできる歯科予防処置法の内容を理解し、器具の正しい把持法、基本的な技術・術式を身に付け、これからの実践で使える技術の基盤作りを目的とする。			
さらに、患者とのコミュニケーションを円滑にする大切さを理解することを目標とする。			
[内容の概要]			
歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。			
[修了時の達成課題（到達目標）]			
臨床の場で実際に患者さんに対して“ 患者さんのために” 自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。			
また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			
15～16 演習【実習室】			
1 実技オリエンテーション【教室・AB合同】	17 前期末試験		
2 ピンセット・ミラーの取り扱い方【教室・AB合同】	18 試験解説【教室・AB合同】		
3 ファントムの取り扱い・ポジション【実習室】	19 グレーシーキュレットスケーラー（構造、特徴）		
4 基本の姿勢 【実習室】		【教室・AB合同】	
5 シックルスケーラー（構造、特徴）	20 グレーシーキュレットスケーラーの把持法・固定【実習室】		
	21 0度挿入【実習室】		
		【教室・AB合同】	
6 スケーラーの把持法・固定 【教室・AB合同】	22～23 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】		
7 スケーラーの把持法・固定【実習室】	24 フッ化物の応用、後期試験について【3F実習室、AB合同】		
8～12 シックルスケーラー操作方法【実習室】	25～26 グレーシーキュレットスケーラー操作方法【実習室】		
13 シックルスケーラーシャープニング	27～28 齲蝕活動性試験【3F実習室・AB合同】		
	29～34 グレーシーキュレットスケーラー操作演習【実習室】		
		【教室・AB合同】	
14 シャープニング復習・前期末試験について	35 後期期末試験		
	36 試験解説【教室・AB合同】		
		【教室・AB合同】	
[使用テキスト・参考文献]			
歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論			
[単位認定の方法及び基準]			
期末試験、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。60点に満たない者は、再試験を行う。			
再試験は、再試験のみを評価する。			
実習時間外に練習を行い基本的な技術を身に付けるように努力すること。			
技術が著しく劣っている者には、2年生で行う相互実習に参加できない場合がある。			

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科予防処置実技実習Ⅱ		担当者 末永 由美	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 1 8 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (1 単位)	配当学年・時期 2 学年 前期 後期	
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院での10年以上の臨床経験があり、臨床経験をもとに実際の臨床症例にあわせた処置方法や対応について教育を行っている。 [目的・ねらい] 歯周組織の病的変化を見逃さないために、健康像を十分に理解し、常に人が健康でいられる状態を保つ事が出来るようになる。またさらに、歯周治療の流れを理解し、応用力を身に付け、患者とのコミュニケーションを円滑にすることを目標とする。 [内容の概要] 歯科予防処置の知識・技能および態度を基に、患者に対してそれを応用・駆使できる総合能力の充実をはかる。 [修了時の達成課題（到達目標）] 臨床の場で実際に患者さんに対して“ 患者さんのために” 自分は何をするべきか何が出来るかを考えることができ、安全で適切な対応ができるようになる。 また、チェックリストを各々で作成させることで到達度を把握し、スキルの向上を図る。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]			10 歯面研磨【ファントム側】 11 グレーシーキュレットスケーラー シャープニング 2～3 口腔内診査〈相互実習〉【チェア側】 【教室、AB合同】 4 チェックテスト説明、期末試験説明【教室】 5 パワースケーラー・手用スケーラー【ファントム側】 【ファントム側】 6～8 パワースケーラー、手用スケーラー〈相互実習〉 【チェア側】 9 チェックテスト 12～13 グレーシーキュレットスケーラー シャープニング 14 歯面清掃【ファントム側】 15～16 演習 【ファントム側】 17 期末試験（登院前試験） 18 フィードバック		
[使用テキスト・参考文献] 歯科予防処置論・歯科保健指導論			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、チェックテスト、授業態度、身だしなみ、出欠席、提出物を総合的に評価する。 チェックテストが合格出来ていない場合は、期末試験を受験する事が出来ない。 期末試験は総合評価で 60 点以下の場合は再試験を行う。 再試験は、再試験のみを評価の対象とする。 技術向上の為に実習授業時間外にも練習を行うこと。 技術が著しく劣っている、安全に実習を行えない、感染対策が出来ていないと判断した者は、相互実習に参加できない。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導		担当者 植松 汐美																					
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 2 0 回	時間数(単位数) 3 6 時間 (2 単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期																				
[目的・ねらい] 歯科の基礎知識の習得および1年次に必要な歯科保健指導の知識と理解を深める。																									
[内容の概要] 歯科保健指導の概要、ライフステージにおける一般的特徴、歯科の基礎知識																									
[修了時の達成課題（到達目標）] 歯科保健指導実施のための基礎知識を身につける・基本的な歯科専門用語が理解できる																									
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 講義の概要・口腔の基礎知識</td><td>11 ライフステージ：学齢期Ⅰ</td></tr><tr><td>2 う蝕と歯周病の基礎知識</td><td>12 ライフステージ：学齢期Ⅱ</td></tr><tr><td>3 ライフステージ：妊産婦期Ⅰ</td><td>13 ライフステージ：思春期・青年期</td></tr><tr><td>4 ライフステージ：妊産婦期Ⅱ</td><td>14 ライフステージ：成人期</td></tr><tr><td>5 ライフステージ：乳児期Ⅰ</td><td>15 生活習慣の指導</td></tr><tr><td>6 ライフステージ：乳児期Ⅱ</td><td>16 ライフステージ：高齢期</td></tr><tr><td>7 ライフステージ：幼児期Ⅰ</td><td>17 食生活の指導</td></tr><tr><td>8 ライフステージ：幼児期Ⅱ</td><td>18 まとめ</td></tr><tr><td>9 前期期末試験</td><td>19 後期期末試験</td></tr><tr><td>10 試験解説</td><td>20 試験解説</td></tr></table>						1 講義の概要・口腔の基礎知識	11 ライフステージ：学齢期Ⅰ	2 う蝕と歯周病の基礎知識	12 ライフステージ：学齢期Ⅱ	3 ライフステージ：妊産婦期Ⅰ	13 ライフステージ：思春期・青年期	4 ライフステージ：妊産婦期Ⅱ	14 ライフステージ：成人期	5 ライフステージ：乳児期Ⅰ	15 生活習慣の指導	6 ライフステージ：乳児期Ⅱ	16 ライフステージ：高齢期	7 ライフステージ：幼児期Ⅰ	17 食生活の指導	8 ライフステージ：幼児期Ⅱ	18 まとめ	9 前期期末試験	19 後期期末試験	10 試験解説	20 試験解説
1 講義の概要・口腔の基礎知識	11 ライフステージ：学齢期Ⅰ																								
2 う蝕と歯周病の基礎知識	12 ライフステージ：学齢期Ⅱ																								
3 ライフステージ：妊産婦期Ⅰ	13 ライフステージ：思春期・青年期																								
4 ライフステージ：妊産婦期Ⅱ	14 ライフステージ：成人期																								
5 ライフステージ：乳児期Ⅰ	15 生活習慣の指導																								
6 ライフステージ：乳児期Ⅱ	16 ライフステージ：高齢期																								
7 ライフステージ：幼児期Ⅰ	17 食生活の指導																								
8 ライフステージ：幼児期Ⅱ	18 まとめ																								
9 前期期末試験	19 後期期末試験																								
10 試験解説	20 試験解説																								
※講義内容は変更になる場合があります																									
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版 (医歯薬出版)			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、授業態度、課題による提出物、 期末筆記試験の成績により総合評価を行う。 期末試験が 60 点未満の場合は再試験を行う。 再試験は再試験のみを評価の対象とする。																						

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導		担当者 植松 汐美	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 8 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 歯科保健指導を行うための、対象者の把握と評価に基づいた歯科衛生過程を習得する。 また、支援に必要なコミュニケーションの重要性を意識づける。 [内容の概要] ライフステージにおける一般的特徴・口腔の特徴・望ましい歯科保健行動について 咀嚼の働きとその効用、歯科衛生過程について [修了時の達成課題（到達目標）] 歯科保健指導実施のための対象となる人々のよりよい健康支援の方法が理解できる。 歯科衛生過程の基本的な考え方と展開する方法について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 要介護高齢者における歯科保健指導 2 障害児者における歯科保健指導 3 咀嚼と食品 4 保健行動支援 5 歯科衛生過程Ⅰ 6 歯科衛生過程Ⅱ 7 歯科衛生過程Ⅲ 8 期末筆記試験 9 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、授業態度、小テスト、レポート、提出物、 期末筆記試験の成績により総合評価を行う。 期末試験が 60 点未満の場合は再試験を行う。		

I G L 医療福祉専門学校

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導		担当者 植松 汐美																			
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (2単位)		配当学年・時期 3学年 前期 後期																		
[目的・ねらい] 歯科衛生教育活動の場で指導するために、必要な専門知識、技術および態度を習得する。 歯科衛生士として、対象者に応じた支援や関わり方を理解し、指導案の作成や伝達技術を習得する。																							
[内容の概要] 地域歯科保健事業、口腔保健管理、媒体作成、歯科保健指導業務の理解 保健・医療・福祉の制度、環境・社会と健康																							
[修了時の達成課題 (到達目標)] 歯科衛生士として歯科保健指導を行うために必要な専門知識、技術を習得するとともに、国家試験合格に必要な学力を身に付ける。																							
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 地域歯科保健活動Ⅰ</td><td>10 歯科保健指導総論</td></tr><tr><td>2 地域歯科保健活動Ⅱ</td><td>11 口腔衛生管理Ⅰ</td></tr><tr><td>3 大規模災害</td><td>12 口腔衛生管理Ⅱ</td></tr><tr><td>4 口腔機能管理</td><td>13 生活習慣指導</td></tr><tr><td>5 介護・社会福祉Ⅰ</td><td>14 口腔機能管理Ⅰ</td></tr><tr><td>6 介護・社会福祉Ⅱ</td><td>15 口腔機能管理Ⅱ</td></tr><tr><td>7 口腔清掃法Ⅰ (口腔ケア相互実習)</td><td>16 健康教育</td></tr><tr><td>8 口腔清掃法Ⅱ (口腔ケア相互実習)</td><td>17 まとめ</td></tr><tr><td>9 チェックテスト (口頭試問)</td><td>18 期末試験</td></tr></table>						1 地域歯科保健活動Ⅰ	10 歯科保健指導総論	2 地域歯科保健活動Ⅱ	11 口腔衛生管理Ⅰ	3 大規模災害	12 口腔衛生管理Ⅱ	4 口腔機能管理	13 生活習慣指導	5 介護・社会福祉Ⅰ	14 口腔機能管理Ⅰ	6 介護・社会福祉Ⅱ	15 口腔機能管理Ⅱ	7 口腔清掃法Ⅰ (口腔ケア相互実習)	16 健康教育	8 口腔清掃法Ⅱ (口腔ケア相互実習)	17 まとめ	9 チェックテスト (口頭試問)	18 期末試験
1 地域歯科保健活動Ⅰ	10 歯科保健指導総論																						
2 地域歯科保健活動Ⅱ	11 口腔衛生管理Ⅰ																						
3 大規模災害	12 口腔衛生管理Ⅱ																						
4 口腔機能管理	13 生活習慣指導																						
5 介護・社会福祉Ⅰ	14 口腔機能管理Ⅰ																						
6 介護・社会福祉Ⅱ	15 口腔機能管理Ⅱ																						
7 口腔清掃法Ⅰ (口腔ケア相互実習)	16 健康教育																						
8 口腔清掃法Ⅱ (口腔ケア相互実習)	17 まとめ																						
9 チェックテスト (口頭試問)	18 期末試験																						
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論 歯科衛生士国試対策集 (クインテッセンス出版株式会社) 歯科衛生学シリーズ 保健生態学 (医歯薬出版) 歯科衛生士テキスト 口腔衛生学			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、出席状況、提出物・課題への取り組みの姿勢、各テストおよび期末試験の結果等により総合評価を行う。 期末試験が 60 点未満の場合は再試験を行う。																				

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導実技実習Ⅰ		担当者 植松 汐美	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)		配当学年・時期 1 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。 歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。 [目的・ねらい] 口腔清掃指導を行うために必要な知識、技術および態度を習得する。 [内容の概要] 歯・口腔の清掃に関する清掃用具の特徴と操作方法、歯磨剤、洗口剤、歯垢染色剤の特徴と使用法 口腔内の観察、口腔清掃状態の評価 [修了時の達成課題 (到達目標)] 口腔清掃用具などの種類について説明ができる。歯磨剤とフッ化物配合歯磨剤の特徴について説明ができる。口腔清掃法について説明、実施ができる。口腔内の観察ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 口腔清掃用具Ⅰ 2 口腔清掃用具Ⅱ 3 化学的清掃法Ⅰ 4 化学的清掃法Ⅱ 5 口腔清掃補助用具Ⅰ 6 口腔清掃補助用具Ⅱ 7 口腔清掃方法 (発表) 8 口腔清掃方法 (フィードバック) 9 歯垢染色法 10 口腔清掃状態に関する指標Ⅰ 11 口腔清掃状態に関する指標Ⅱ 12 口腔清掃実習Ⅰ 13 口腔清掃実習Ⅱ 14 口腔清掃実習Ⅲ 15 まとめ 16 補助用具チェックテスト 17 期末実技試験 18 解説 (A B 合同)					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ 歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版 (医歯薬出版)			[単位認定の方法及び基準] 授業態度、出席状況、実習・提出物・課題への取り組みの姿勢、各テストおよび期末実技試験の結果等により総合評価を行う。 期末試験が60点未満の場合は、再試験を行う。 期末試験は複数教員で評価を行うこととする。		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科保健指導実技実習Ⅱ		担当者 植松 汐美	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (1単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
歯科医院で10年以上の臨床経験を持ち、臨床で得た知識や技術を生かし、問題解決型の教育を行っている。					
[目的・ねらい]					
1年次に学んだことをもとに歯科衛生士活動の意義を理解し、様々なライフステージまたは症例に応じた保健指導を行えることを目的とする。また、個別・集団指導の基本的な技法を習得する。					
[内容の概要]					
口腔清掃補助用具について、義歯関連清掃用具について、 口腔清掃指導（リスク、ライフステージ別）					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
ライフステージや症例に応じた保健指導ができる。 歯ブラシや各種清掃用具の選択と使用法の指導ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1 オリエンテーション、1年次の復習					
2 口腔状況に応じた指導法Ⅰ					
3 口腔状況に応じた指導法Ⅱ					
4 口腔清掃法実技Ⅰ					
5 口腔清掃法実技Ⅱ					
6 口腔清掃法実技Ⅲ					
7 義歯関連（ＡＢ合同）					
8 セミナー（ＡＢ合同）					
9 チェックテスト（口頭試問）					
10 登院前試験について（課題の説明、ＡＢ合同）					
11 ライフステージ別の口腔清掃指導					
12 禁煙指導（ＡＢ合同）					
13 摂食・嚥下Ⅰ					
14 摂食・嚥下Ⅱ					
15 パワーポイント発表Ⅰ					
16 パワーポイント発表Ⅱ					
17 まとめ（ＡＢ合同）					
18 期末試験（登院前試験）					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
歯科衛生学シリーズ			出席状況、授業態度、身だしなみ、提出物、チェックテスト、発表、期末試験により総合評価を行う。		
歯科予防処置論・歯科保健指導論（医歯薬出版）			チェックテストを受験していない場合は、期末試験を受験することが出来ないとする。		
歯科衛生学シリーズ			期末試験で60点未満の場合は、再試験を行う。		
保健生態学（医歯薬出版）			期末試験は複数教員で評価を行うこととする。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科診療補助		担当者 森 安曇	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 8 時間 (1 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 1 年次に引き続き、歯科診療補助に必要な知識を学び、これらの知識をもとに歯科衛生士として総合的に思考し、行動できるよう学習する。また、歯科診療に対する理解を深めるとともにコミュニケーション能力の重要性を学ぶことを目的とする。					
[内容の概要] 1年次に引き続き、歯科材料の基礎知識、取り扱い方法を学ぶとともに、臨床現場で実際に行われる歯科診療の補助について必要な器材・器具、歯科衛生士としての役割について理解を深める。					
[修了時の達成課題（到達目標）] 治療内容に応じた歯科衛生士の役割について理解する。 各治療における手順や準備物を理解する。 各症例と治療について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 画像検査 2 ラバーダム防湿 3 歯科診療と歯科診療補助Ⅰ 4 歯科診療と歯科診療補助Ⅱ 5 歯科診療と歯科診療補助Ⅲ 6 歯科診療と歯科診療補助Ⅳ 7 歯科診療と歯科診療補助Ⅴ 8 試験 9 解説					
[使用テキスト・参考文献] 歯科衛生学シリーズ歯科診療補助論 (医歯薬出版) 歯科衛生学シリーズ (医歯薬出版)			[単位認定の方法及び基準] 期末試験 90%、小テスト 10%で評価する。 ただし、授業中の居眠り、私語、または授業態度が不良（欠席、遅刻含む）と判断される場合は、減点する。		

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科診療補助		担当者 森 安曇																																					
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 18回	時間数(単位数) 36時間 (2単位)		配当学年・時期 3 学年 前期 後期																																				
[目的・ねらい] 臨床における基礎的な知識の総復習を行い、1年次から学んできた診療補助の総まとめを行う。また、国家試験に向けてポイントとなる項目を確認し、国家試験対策を行う。																																									
[内容の概要] 3年間の総まとめとして、今まで学んできた歯科材料の取り扱い方や症例に合わせた歯科診療補助について理解を深めるために、演習を交えながら講義を行う。また、全身疾患に対する知識を深め、多職種と連携できる知識を身につける。																																									
[修了時の達成課題（到達目標）] 各種歯科器具・器材や歯科材料の取り扱い方法について説明できる。症例にあわせた器具の・器材の準備が出来る。消毒・滅菌に対して理解し、感染防止に配慮した器具の取り扱いについて説明できる。様々な疾患や治療方法を理解し、歯科衛生士としてどのような診療補助が必要か説明できる。																																									
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>10</td><td>解説 国試対策について</td></tr><tr><td>2</td><td>セメント練和</td><td>11</td><td>医療安全</td></tr><tr><td>3</td><td>セメント充填</td><td>12</td><td>歯科材料の取り扱いⅠ</td></tr><tr><td>4</td><td>全身疾患と歯科診療補助Ⅰ</td><td>13</td><td>歯科臨床における歯科診療補助Ⅰ</td></tr><tr><td>5</td><td>全身疾患と歯科診療補助Ⅱ</td><td>14</td><td>歯科臨床における歯科診療補助Ⅱ</td></tr><tr><td>6</td><td>全身疾患と歯科診療補助Ⅲ</td><td>15</td><td>歯科臨床における歯科診療補助Ⅲ</td></tr><tr><td>7</td><td>全身疾患と歯科診療補助Ⅳ</td><td>16</td><td>歯科臨床における歯科診療補助Ⅳ</td></tr><tr><td>8</td><td>チェックテスト</td><td>17</td><td>歯科臨床における歯科診療補助Ⅴ</td></tr><tr><td>9</td><td>筆記試験、フィードバック</td><td>18</td><td>期末試験</td></tr></table>						1	オリエンテーション	10	解説 国試対策について	2	セメント練和	11	医療安全	3	セメント充填	12	歯科材料の取り扱いⅠ	4	全身疾患と歯科診療補助Ⅰ	13	歯科臨床における歯科診療補助Ⅰ	5	全身疾患と歯科診療補助Ⅱ	14	歯科臨床における歯科診療補助Ⅱ	6	全身疾患と歯科診療補助Ⅲ	15	歯科臨床における歯科診療補助Ⅲ	7	全身疾患と歯科診療補助Ⅳ	16	歯科臨床における歯科診療補助Ⅳ	8	チェックテスト	17	歯科臨床における歯科診療補助Ⅴ	9	筆記試験、フィードバック	18	期末試験
1	オリエンテーション	10	解説 国試対策について																																						
2	セメント練和	11	医療安全																																						
3	セメント充填	12	歯科材料の取り扱いⅠ																																						
4	全身疾患と歯科診療補助Ⅰ	13	歯科臨床における歯科診療補助Ⅰ																																						
5	全身疾患と歯科診療補助Ⅱ	14	歯科臨床における歯科診療補助Ⅱ																																						
6	全身疾患と歯科診療補助Ⅲ	15	歯科臨床における歯科診療補助Ⅲ																																						
7	全身疾患と歯科診療補助Ⅳ	16	歯科臨床における歯科診療補助Ⅳ																																						
8	チェックテスト	17	歯科臨床における歯科診療補助Ⅴ																																						
9	筆記試験、フィードバック	18	期末試験																																						
[使用テキスト・参考文献] 医歯薬出版 歯科衛生学シリーズ「歯科診療補助論」 永末書店 「イラストと写真でわかる歯科材料の基礎」			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、チェックテスト、授業態度、出席率、提出物、身だしなみを加味し、総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。原則チェックテスト、筆記試験、期末試験がすべて60点以上の場合、単位を与える。																																						

学科名 歯科衛生学科		科目名 歯科診療補助実技実習Ⅱ		担当者 森 安曇	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 5 4 回	時間数(単位数) 1 0 8時間 (3単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
本科目は実務経験のある教員による授業科目である。					
歯科医院での20年以上の臨床経験があり、臨床に必要な歯科診療補助に必要な技術・知識の習得とともに、チーム医療のスタッフとして専門的な立場から行動できるよう教育を行っている。					
[目的・ねらい]					
臨床実習に向けて歯科衛生士として必要な知識、技術を高める。今まで学んだことを総合的に考え、自らの行動をマネジメントできる段取り力をみにつけることを目標とする。また、コミュニケーション能力の充実を図る。					
[内容の概要]					
臨床実習に向けてより具体的な歯科診療補助について知識、技術を高めるために、実技実習を行う。					
ロールプレイを通し、歯科医療現場で自主的に行動することが出来るよう実技実習を行う。授業の中でチェックテストを行うことで到達度を図る。					
[修了時の達成課題（到達目標）]					
症例に応じた手順、器具や器材の準備ができる。					
印象材やセメントが適切な状態で練和できる。					
治療内容を理解し、器具の名前や使用方法が説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容]					
1	オリエンテーション		23～26	歯科治療時に使用される器具・器材	
2	1年次の復習		27～36	器具のセッティング	
3	バキュームテクニック		37～49	演習	
4	歯間分離・隔壁法		50～53	バキュームセミナー（予定）	
5～6	成形歯冠修復		54	期末試験（登院前試験）	
7～11	テンポラリークラウン				
12～13	ラバーダム防湿				
14	印象採得（ファントム）				
15～20	スタディーモデル				
21～22	スタディーモデル（トリミング）				
[使用 テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]		
歯科衛生学シリーズ 歯科診療補助論 医歯薬出版			期末試験、チェックテスト、授業態度で総合的に評価		
歯科衛生学シリーズ 歯科材料 医歯薬出版			する。期末試験は各項目すべてで 60%以上の点数が		
			無い場合は単位を与えない。欠席、早退、私語等授業		
			態度が不良な場合や身だしなみが整えられていない		
			場合は、減点する。		

2025年度授業概要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 臨地実習・臨床実習		担当者 各臨床実習先指導員	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 回	時間数(単位数) 90時間 (2単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[目的・ねらい] 臨床における歯科衛生士の役割を理解し、歯科診療の流れを理解する。 [内容の概要] 歯科医院での見学実習を行いながら、診療の流れやスタッフの動き、患者とのコミュニケーションを学び、歯科衛生士がどのような業務をおこなっているかについて理解を深める。 [修了時の達成課題（到達目標）] 診療室における歯科衛生士の業務について説明できる。臨床現場における清潔、不潔について理解し、実際に消毒・滅菌について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 臨床実習 【開業医実習】 日程：2025年8月4日～2025年8月12日のうち2日間 2026年3月11日～2026年3月31日のうち8日間 時間：午前8時30分～午後4時30分 詳細は、「臨床実習見学の心得」「臨床実習の手引き」参照					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 実習レポートをもとに評価を行う。		

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 臨地実習・臨床実習	担当者 専任教員
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 回	時間数(単位数) 810時間 (18単位)
配当学年・時期 3学年 前期 後期		
[目的・ねらい] 今までに学んだことを臨床現場における歯科衛生業務と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うために、様々な場面での歯科衛生士として必要な知識、技能および態度を身につける。臨地実習において多職種と連携し、歯科衛生士として活動の場を広げる。 [内容の概要] 歯科衛生士として必要な知識、技術および態度を臨床現場において実習を行うことで学ぶ。また、保育園・幼稚園、老人介護施設において実習を行い、他職種との連携の必要性、歯科衛生士としての役割を学ぶとともに歯科衛生士の活動を広める。 [修了時の達成課題（到達目標）] 症例にあわせた歯科衛生士業務が実践できる。チーム医療の一員としての行動が出来る。医療人として必要な接遇マナーが実践できる。医療安全管理を意識した行動ができる。医療倫理に基づいた行動ができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 臨床実習 【開業医実習】 日程：2025年3月13日～2024年11月7日のうち80日間 時間：午前8時30分～午後4時30分 【老人介護施設】 日程：2025年5月22日～2025年9月22日のうち各6日間 時間：午前8時30分～午後4時30分 【認定こども園】 日程：2025年5月22日～2025年8月1日のうち各6日間 時間：午前8時30分～午後4時30分 【広島大学病院】 日程：2025年8月25日～2025年10月23日のうち各8日間 【安佐市民病】 日程：2025年7月3日～2025年10月23日のうち各4日間 時間：午前8時30分～午後4時30分 【補講期間】 日程：2025年11月10日～2025年11月18日 詳細は別紙「臨床実習日程表」「臨地実習の手引き」「臨地実習帳」参照		

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準] 臨床実習及び臨地実習の評価表をもとに総合的に 評価を行う。
---------------	---

I G L 医療福祉専門学校

学科名 歯科衛生学科		科目名 看護学		担当者 専任教員	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 8 回	時間数(単位数) 16時間 (1 単位)		配当学年・時期 2学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 看護に関する過去と現在、および未来の見通しを伝え、看護学の本質を理解させると同時に、看護学の豊かさや奥深さをイメージさせ、関心を高め看護学への学習意欲を高める。					
[授業全体の内容の概要] 病院における歯科衛生士の役割、看護の概念、歯科衛生士にも必要な基本的な看護技術や看護実務について理解する。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 看護とは何か、また看護の対象である人間とはどのような存在であるかを学び、看護は何を目的にどのような方法で行うかについて基本的事項を学ぶ					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション、病院における歯科衛生士の役割（森） 2 バイタルサイン（森） 3 スタンダードプリコーション（廣瀬） 4 生活習慣病（森） 5 患者とのコミュニケーション（植松） 6 救命講習（末永） 7 救命講習（末永） 8 試験					
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準] 期末試験、出席状況、課題レポート、 授業態度の総合評価		

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

選択必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 総合演習		担当者 専任教員																													
種類 (講義・演習・実習)		回数 2 2 回	時間数(単位数) 4 4 時間 (2 単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期																												
[目的・ねらい] 昇級模擬試験をもとに知識の充実をはかり、国家試験に向けて総合的な実力をつけることを目的とする。																																	
[内容の概要] 昇級模擬試験をもとに知識の充実をはかり、国家試験に向けて総合的な実力をつける。																																	
[修了時の達成課題（到達目標）] 国家試験を見据え、2年次から対策をスタートし、全科目の安定した基礎学力が向上すること。																																	
[授業の日程と各回のテーマ・内容] <table><tr><td>1 第 2 回昇級模擬試験</td><td>15 第 8 回昇級模擬試験</td></tr><tr><td>2 試験解説</td><td>16 解説</td></tr><tr><td>3 第 3 回昇級模擬試験</td><td>17 卒業研究聴講</td></tr><tr><td>4 試験解説</td><td>18 卒業研究聴講</td></tr><tr><td>5 歯牙判別</td><td>19 第 9 回昇級模擬試験</td></tr><tr><td>6 第 4 回昇級模擬試験</td><td>20 試験解説</td></tr><tr><td>7 試験解説</td><td>21 期末試験</td></tr><tr><td>8 第 5 回昇級模擬試験</td><td>22 解説</td></tr><tr><td>9 試験解説</td><td></td></tr><tr><td>10 第 6 回昇級模擬試験</td><td></td></tr><tr><td>11 試験解説</td><td></td></tr><tr><td>12 第 7 回昇級模擬試験</td><td></td></tr><tr><td>13 試験解説</td><td></td></tr><tr><td>14 特別講義</td><td></td></tr></table>						1 第 2 回昇級模擬試験	15 第 8 回昇級模擬試験	2 試験解説	16 解説	3 第 3 回昇級模擬試験	17 卒業研究聴講	4 試験解説	18 卒業研究聴講	5 歯牙判別	19 第 9 回昇級模擬試験	6 第 4 回昇級模擬試験	20 試験解説	7 試験解説	21 期末試験	8 第 5 回昇級模擬試験	22 解説	9 試験解説		10 第 6 回昇級模擬試験		11 試験解説		12 第 7 回昇級模擬試験		13 試験解説		14 特別講義	
1 第 2 回昇級模擬試験	15 第 8 回昇級模擬試験																																
2 試験解説	16 解説																																
3 第 3 回昇級模擬試験	17 卒業研究聴講																																
4 試験解説	18 卒業研究聴講																																
5 歯牙判別	19 第 9 回昇級模擬試験																																
6 第 4 回昇級模擬試験	20 試験解説																																
7 試験解説	21 期末試験																																
8 第 5 回昇級模擬試験	22 解説																																
9 試験解説																																	
10 第 6 回昇級模擬試験																																	
11 試験解説																																	
12 第 7 回昇級模擬試験																																	
13 試験解説																																	
14 特別講義																																	
[使用テキスト・参考文献] 今まで受けてきた授業の教科書全般			[単位認定の方法及び基準] 期末試験で60点以上を合格とする。 ただし、期末試験までに昇級模擬試験の判定が10級の者は担当教員の指示に従い、課題提出、補講を受けること。ただし課題の未提出、未補講の場合は原則期末試験を受験できない。																														

学科名 歯科衛生学科	科目名 卒業研究	担当者 専任教員
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 10回	時間数(単位数) 16時間 (1 単位)
配当学年・時期 3 学年 前期 後期		
[目的・ねらい] 学生自身の勉学や実習の中から発生した疑問に基づき、様々な文献を検討、実験を行う事によって科学的な視点から考察し、一連の作業から研究とプレゼンテーションの技法を習得する。 また、研究内容についてディスカッションを行うことでコミュニケーション能力を高めることを目標とする。 [内容の概要] 今までの勉学、実習から疑問に思ったことを研究のテーマとし、班ごとに研究を進める。 実験は予想通りの結果が出るとは限らないため、データを見ながら実験方法等を検討し、最終的な研究結果をまとめ、卒業研究発表会でプレゼンテーションを行う。 [修了時の達成課題（到達目標）] 科学的根拠に基づいた研究が出来る。 グループのメンバー同士が協力して研究に望むことが出来る。 研究内容についてディスカッションを行うことでコミュニケーション能力を高める。 プレゼンテーションが行える。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 序論 研究の方法について 2 研究テーマの設定とスケジュール作成 3 実験 4 実験 5 中間発表 6 実験 7 チェック 8 研究発表会 9 研究発表会 10 フィードバック		
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準] 卒業研究のテーマ、内容、研究の方法、研究発表（プレゼンテーション方法等含む）、グループ内の協力度を総合的に評価する。

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

必修

学科名 歯科衛生学科		科目名 介護学		担当者 橋口 直樹	
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)		回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1単位)		配当学年・時期 2 学年 前期 後期
[授業の目的・ねらい] 介護の理論や倫理について学ぶ。基本的生活支援技術（介護技術）を体験し、理解する [授業全体の内容の概要] 生活支援が必要な利用者への知識・技術を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 高齢者や障がい者への基本的なかかわり方ができるようになる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション 介護保険制度について 2 介護の基本・コミュニケーション 3 移動 4 食事 5 排泄 6 清潔 7 衣服の着脱・レクリエーション 8 本試験 9 試験解説					
[使用テキスト・参考文献] 介護基礎技術ハンドブック（貸与） 広島県福祉・人材確保総合支援協議会			[単位認定の方法及び基準] 期末試験及び受講態度・レポート等を総合的に評価する		

I G L 医療福祉専門学校

2 0 2 5 年 度 授 業 概 要

選択必修

学科名 歯科衛生学科	科目名 東洋医学		担当者 柳楽 美作男
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 9 回	時間数(単位数) 1 6 時間 (1 単位)	配当学年・時期 1 学年 前期 後期
[目的・ねらい] 東洋医学とはなにか？正統な西洋医学との考え方の違いをまず理解する。これにより人間（患者）をみる複数の見方があるということを知る。また東洋医学独自の考え方を学び、理解する。			
[内容の概要] 東洋医学の歴史、按摩法など手技療法の実際、食養生を含む東洋医学的養生法を学ぶ。			
[修了時の達成課題（到達目標）] 東洋医学の考え方を知り、日常生活に応用できることがあれば取り入れる。特に歯科衛生士は立ち仕事が多いので自分の健康管理の一つとして東洋医学の良い点を学び、実践できるようになること。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容] 1 東洋医学とは・東洋医学の世界観 2 東洋医学とは・東洋医学の歴史 3 東洋医学の手法～四診法その他 4 東洋医学の手法～手技を用いた治療 5 女性に良く効く東洋医学1（手技療法） 6 女性に良く効く東洋医学2（手技療法） 7 女性に良く効く東洋医学3（食養生） 8 ふりかえり・試験 9 解説、まとめ			
[使用テキスト・参考文献] 適宜プリントを配布します		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験を行い、60 点以上を合格とする。	

I G L 医療福祉専門学校

学科名 歯科衛生学科	科目名 手話	担当者
種類 (講義 ・ 演習 ・ 実習)	回数 8回	時間数(単位数) 16時間 (1単位)
配当学年・時期 1 学年 前期 後期		
【目的・ねらい】 * 聞こえないことや、聞こえない人たちへの理解を深める * 簡単な手話を覚える。 【内容の概要】 * 聴覚障害の基礎知識 * 簡単な手話技術の習得（挨拶・自己紹介・医療現場で使う単語、会話等） 【修了時の達成課題（到達目標）】 * 聞こえないことや、その人たちへの理解 * 手話で自己紹介ができるようにする * 相手に合わせたコミュニケーション方法が選択できる（手話・口話・筆談など）		
【授業の日程と各回のテーマ・内容】 ・オリエンテーション ・聞こえないことについて ・手話実技（挨拶） ・聴覚障害者について ・手話実技（挨拶・名前・指文字） ・失聴時期とコミュニケーション方法について ・手話実技（復習・名前の読み取り） ・医療現場での聞こえない人たちは？（患者として）・手話実技（復習・数詞） ・聴覚障害者を支える環境について ・手話実技（疑問詞・医療関係単語） ・会話練習（疑問詞を使って話しましょう） ・ろう者と話しましょう ・体験談 ・質疑応答 ・感想 ・試験（単語・短文の読み取り・指文字・その他）		
【使用テキスト・参考文献】 講師作成プリント		【単位認定の方法及び基準】 （3×出席日数）＋（4×19問） 合計 60%以上